

平成26年第2回糸魚川市議会定例会会議録 第2号

平成26年6月13日(金曜日)

議事日程第2号

平成26年6月13日(金曜日)

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	笠原幸江君	2番	斉木勇君
3番	渡辺重雄君	4番	吉川慶一君
5番	樋口英一君	6番	保坂悟君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	伊藤文博君	10番	中村実君
11番	大滝豊君	12番	高澤公君
13番	田原実君	15番	吉岡静夫君
16番	新保峰孝君	17番	倉又稔君
18番	松尾徹郎君	19番	五十嵐健一郎君
20番	古畑浩一君		

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長 米田 徹君 副市長 織田 義夫君

総務部長	金子裕彦君	市民部長	吉岡正史君
産業部長	加藤政栄君	総務課長	田原秀夫君
企画財政課長	斉藤隆一君	能生事務所長	原郁夫君
青海事務所長	山岸寿代君	市民課長	岩崎良之君
環境生活課長	渡辺勇君	福祉事務所長	加藤美也子君
健康増進課長	山本将世君	交流観光課長	藤田年明君
商工農林水産課長	斉藤孝君	建設課長	串橋秀樹君
都市整備課長	金子晴彦君	ガス水道局長	小林忠君
消防長	大滝正史君	教育長	竹田正光君
教育次長 教育委員会子ども課長兼務	伊奈晃君	教育委員会子ども教育課長	渡辺寿敏君
教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務 勤労青少年ホーム館長兼務	竹之内豊君	教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ヶ原考古館長兼務	佐々木繁雄君
監査委員事務局長	池田正吾君		

〈事務局出席職員〉

+	局長	小林武夫君	次	長	猪又功君	+
	主査	室橋淳次君				

〈午前10時00分 開議〉

○議長（樋口英一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（樋口英一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、9番、伊藤文博議員、17番、倉又稔議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（樋口英一君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は13人ですが、議事の都合により本日5人、16日5人、17日3人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き1人30分であります。

所定の時間内に終わるよう、質問・答弁とも簡潔に要領よくお願いいたします。

また、質問は、通告の範囲内にとどめるようご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

笠原幸江議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原幸江議員。〔1番 笠原幸江君登壇〕

○1番（笠原幸江君）

おはようございます。

清生クラブ、笠原幸江です。

通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、いじめ不登校対策について「当事者にしかわからない私の声が届きますか」。

いじめが、いじめを受けた児童等の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものであることに鑑み、児童等の尊厳を保持するため、昨年9月にいじめ防止対策推進法が施行されました。また、本年3月には新潟県いじめ防止基本方針が策定されております。

多感な成長過程において、辛い日々を余儀なくされている子どもたちや、保護者の皆さんが明るい方向を見出すために、当市でのいじめの現状及び今後の対策について伺います。

(1) いじめ防止対策推進法でいじめの定義が明確化されましたが、過去3年間におけるいじめの状況（件数）について。

(2) 学校におけるいじめ対策の取り組みについて。

(3) いじめ防止対策推進法で重大事態への対処が明確化され、新潟県基本方針の中でも具体的に定義されていますが、当市においては、県方針の要件に該当する重大事態は発生しているか。また、発生した場合の対応策について。

(4) 不登校の定義といじめを起因とする不登校の状況（件数）について。

(5) ひすいルーム及び適応指導教室に通学している児童生徒の状況及び通常学級への復帰に向けての支援策について。

(6) 当市の基本方針の策定について。

2、男女共同参画社会の実現に向けた対応について。

男女共同参画社会基本法が施行され、今年で13年目を迎えております。当市においては平成17年の合併を機に基本方針を示す中で、全市的な取り組みが進められています。

国の基本法では「基本理念を明らかにしてその方向を示し、将来に向かって国、地方公共団体及

び国民の男女共同参画社会の形成に関する取組を総合的かつ計画的に推進するため、この法律を制定する」とうたわれています。

こうした中、国の成長戦略の骨子案においても、女性の社会進出を促す考え方も打ち出しています。その中の主なものに、女性の働き方に関する税制のあり方を、幅広く検討する事にもなっています。

当市においては、「いといがわ男女共同参画プラン」を策定し、第1次行動計画（平成19年～平成23年）、第2次行動計画（平成24年～平成28年）において様々な事業が各課にわたり進められています。

今後の社会情勢の変化や、女性を取り巻く社会状況にどのように対応されていくのか、輝くようなメッセージの発信をしていただきたく、以下の項目を市長に伺います。

- (1) 男女共同参画社会を推進するための意識づくりについて。
- (2) 各種審議委員会等の構成の割合について。
- (3) 職員の登用の考え方について。
- (4) ハッピーパートナー制度の現状について。
- (5) チーム糸魚川の委員構成について。
- (6) 第2次行動計画の検証と第3次行動計画の取り組みについて。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

笠原議員のご質問にお答えいたします。

1番目のいじめ不登校対策についてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2番目の1点目につきましては、男性、女性がそれぞれの個性を発揮できるような社会を目指し、引き続き各種講座や研修を実施してまいります。

2点目につきましては、25年度中の各種審議委員会等における委員総数580名のうち、女性委員数は147名となり、女性登用率は25.3%となっております。

3点目につきましては、性別にかかわらず職員の適性により登用いたしております。

4点目につきましては、現在、市内24の団体から、また、企業から登録いただいております。

5点目につきましては、現在、商工団体をはじめ産業団体、観光団体など23団体が参加いただいております。趣旨に賛同いただける団体を随時募集をいたしております。

6点目につきましては、第2次行動計画が28年度で最終年度となることから、27年度に検証を行い、28年度には策定委員会を設置し、計画策定をしてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

おはようございます。

笠原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、本市において認知された件数は、23年度は小学校11件、中学校8件、24年度は小学校4件、中学校10件、25年度は小学校9件、中学校13件であります。

2点目につきましては、学校においていじめ防止基本方針の策定を年度当初に指示し、その基本方針に基づき、特にいじめの未然防止と、いじめの早期発見、早期対応に力を入れて取り組んでおります。

3点目につきましては、本市においても発生しております。

現在、教育委員会では学校と一緒に、いじめを受けた児童生徒と保護者に対して、その気持ちに寄り添うべく対応しているところであります。また、上越教育事務所にも報告し、今後の対応について指導を仰いでおります。

4点目につきましては、不登校の定義は、何らかの心理的、身体的、あるいは社会的な要因により登校しない、あるいは、したくてもできない状況にあることであります。要因はさまざまであり、特定することは困難ですが、いじめを起因とする不登校については、25年度は中学校で2件ありました。

5点目につきましては、現在、中学生5名が教育相談センターひすいルーム、及び校内適応指導教育へ通学しております。教室復帰に向けて安心して活動できる環境を提供し、教育相談員が個々の児童生徒の不安や悩みを聞いたりして、本人の意欲を高めるための取り組みを行っております。

6点目につきましては、現在、糸魚川市いじめ防止基本方針の策定に向けて、鋭意進めております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

2回目の質問に入らせていただきます。

私は、まず学校の教育の原点、これはいつの時代になっても知・徳・体、教育要覧の中に、ひとみかがやく、日本一の子ども、0歳児から18歳までの子ども一貫教育方針に沿って、その方針を打ち出しておることも承知しております。日ごろから職員、保護者、それから生徒さん、地域、それぞれの皆さんと力を合わせて取り組んでいることにも敬意を表してる一人であります。親は子供の成長過程においても一緒に悩み、そして楽しみ、ともに成長する。これが学校、子供を通して、自分たちが行える大人の責任だと感じております。

私も元気な子供が学校へ行き、そのとき折に触れるにつれて私自身も元気をいただいているところでありますが、このような質問をさせていただいたことは、とても自分自身にも辛い状態であり

ます。

そこで過去3年間におけるいじめの件数をお聞きしたんですが、23年度、24年度、確かに増減はあるんですけど、24年度から25年度にかけてなぜふえたのか、その意図はいかがなものなんでしょうか、聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

おはようございます。

笠原議員のご質問にお答えしたいと思います。

私もいじめについては、非常に重大に考えております。平成25年度は計22件と増加しておりますが、この件につきましては、昨年6月にいじめ防止対策推進法が公布されるなど、いじめの防止対策の動きが非常にしみ渡っております、学校の教職員や保護者の皆様のいじめに対する意識が高まり、よりよく子供たちを見ていこう、観察していこうという動きの結果のためと考えております。いじめそのものがふえているというよりも、子供たちをよく見ていた結果というふうに私どもは分析しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

課長のお話の中にもありましたが職員の意識、さまざまな過程で職員の意識も変わってきたというふうに、今、捉えたんですが、実際に全職員の意識というのは学校内では大きく変わっているのかどうか。これ法が制定される前から、それからこのいじめというのは、どんなところでも、どんな場合でも、この学校の中で常に生まれたり、それから子供同士で解決したり、その中で成長していくものなんですけれども、この法律ができたからといって職員の意識が変わったとか、変わらないじゃなくて、もともとあった意識の中ではどうなのでしょう、それから随分変わっているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

法律が制定されたからというのは、確かに決定的なものではないと思いますが、しかし、平成23年の大津市のいじめ自殺問題から、世の中が非常に子供たちの心身の動きに敏感になっております。また、学校現場においてもいじめに対する認識は、かなり改まっていると私どもは受け取っております。

非常に子供たちの動きの中では、本当にささいなことであってもいじめにつながるのかどうか、そこは教師の感性が活かされる場所でもあります。どんなところでも、どこにでも起こり得るもの

として、真剣に子供たちを観察しているように先生方も意識を変革していると私は信じております。
以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

先ほど25年度22件ありましたということなのですが、この22件中に、その状況はどういうふうになってますか。22件のうちの内訳みたいなものがあつたら聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

今ちょっと件数はわかりませんが、その内容は、冷やかし、からかい、このいじめがほとんど多数を占めております。そのほかには仲間外れとか無視、あるいはぶつかつたり、たたいたりするような身体への侵害も1件ではありますがありました。ほとんどが冷やかし、からかいということであります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

いじめの定義の中に、今の冷やかしとか、からかいというのが含まれている状態なんですね。この定義はどういうものなのかということになりますと、一定の人間関係にある他の児童が行う心理的な、また、物理的な影響。仲間、グループ、金品を取られる、隠される、悪口、冷やかし、仲間外れ。そういうふうにして軽くぶつかっただけでも、そういう状態になっていく。それから遊ぶふりをしてたたかれる、蹴られる、金品をたかれる、盗まれる、ネットによる誹謗中傷、これらが全てこの中の、今、課長がお話なされたこの糸魚川の状況を見ますと、確かにその部分の中に入りますが、まだまだ根深いものがあると私は見てるんですけども、認知した件数だけでしょうか、まだそのほかにあるとお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

少なくとも22件につきましては、学校現場で認知した件数であります。これをもって全てとは思いません。どこにでもあり得ます。今、議員ご指摘のとおり、ほんのちょっとしたささいなことが、果たしていじめにつながるのかどうか。そこら辺のことは、本当に子供たちをよく見ている現場でないと、わからないところがあります。これは本当に学校の姿勢や教師の姿勢が、多分に大きなものとなります。そのために教員のほうも、日々研修を重ねているところでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

課長、本当にそのとおりです。現場にいる教諭の方でなければわからない。保護者さん、「学校へ行ってきます」と言ってから、「お帰り」って帰ってくるまでの間、学校の中で行われているこのいじめの定義なんですよ。それで実は私、ある保護者の方から、いじめに遭っていて家族一同悩んでいます。助けてくださいというメールをいただきました。このようなメールをいただいても、私は教師の資格ありません。それから学校の現場にも入っていることはないんですね。そうすると、どうにもならない。私にはどうにもこの問題を解決できない。ただ、学校の中にいる教師、職員、いわゆるそういう人たちは、子供たちと接する中でそれを見きわめ、初期段階できっちりと対応できる。私も何で、本当に心痛い。助けてくださいと言われても私は教師じゃないので、学校の中にも入れないのでとても辛い。

私は基本的には、このいじめというのは学校と職員の責任だと考えております。そのところは、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

現場で見ているのは、学校の教職員であります。その責任は大変重いと思います。まして最初、初期段階でいじめを発見した場合の取り組みが、その後の長引くかどうかの非常に大きな分岐点になると私も思っております。その意味では、大変責任が重いと思っております。

しかしプラス、やはり学校だけで問題が起きているものでもないところがあります。例えばインターネットを通じたいじめ等もありますし、また、地域等での子供たちのつき合いの中から、いじめに発展する場合があります。

したがいまして、学校としては学校の責任は十分認識しながらも、そういう情報を家庭や地域と共有しながら、三者一体となって子供たちを見守っていこう、そういう青少年育成協議会のような場面も設けまして、協力をお願いしている部分もございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

それって確かに地域とか保護者とか、この教育要覧の中にも書いてあります。表のところ、しっかりとあるんですが、各学校でもさまざまな学校で取り組みをなさってます。でも、今起きている事例というのは、冷やかしか、からかいでしょう。それ学校の中で起きてるわけだか

ら、それは学校の責任でないですか。インターネット、あるいはLINEというもので、誹謗中傷したりすることはあるかもしれないけれども、それをやっちゃいけない、それをしっちゃいけないということは、学校の教育の中で私はできると思うんですよね。だから全体でやらなきゃいけないじゃなくて、今、学校で起きていることは、学校の中でしっかりやってください。できますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えします。

まさにそのとおりであります。そのために私どもも研修の機会を通じて、各学校に指導しているところであります。4月の最初の校長会で、この基本方針を策定するように指導したのは、年度当初にまず学校で、いじめに対応してどのような対策を講じるのか、真剣に考えてもらいたい。そういう意図があってお願いをしたのであります。学校の責任を十分考えておりますし、また、それらを任せるばかりではなくて、私どもも研修会を通じて先生方の意識を高めてまいりたいと考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

2番目の質問に入ります。

学校におけるいじめ対策について、これ今、私、課長と責任のことでお話ししましたが、本当に今、問われている時代なんです。学校の責任、家庭の責任、地域の責任というふうにして分担されてます。一緒には取り組みますけれども、今のいじめに対しては、ほとんど学校の中で、校内の中で起きてるということを認識していただければありがたいです。それでどのような対策を、今進められていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えします。

先ほどお話ししました4月に、学校でのいじめ防止対策基本方針を立てなさいという指導をいたしました。その中身についてですが、まず最初に、学校は絶対にいじめを許さないんだと、いじめをさせないんだという強い気持ちを、まず方針として打ち出すこと。その次に、では、いじめをまず未然防止するには、どういうことをすればいいのか。もしも、いじめが発生したときには、どうするのか。そういう順番で対策を講じるように、今、しております。

具体的な中身をお話すれば、いじめの未然防止、そのためには何が必要なのか。まずは教員みずからの資質の向上を図ること、校内研修体制です。

2つ目、子供たちが自分自身に、自信を持って学校生活を送れるようにすること。それから人への思いやりの心を持つこと。こういった豊かな心を育む場を設定すること。これは学習ばかりではなくて、1年間を通じていろんな教育活動の中で織り込んでいくように、計画をしてくださいというようになっております。

それから早期発見のためには、毎週1回は子供の情報を自分たちで共有すること。その中で、こんなことがこういうふうになった、そういう情報をみんなで共有することによって職員の研修にもなりますし、また、子供たちを全員の目で見えていくんだという姿勢をあらわすことができます。この早期発見のシステムをきちんと構築すること。これが主な内容になっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

学校からこのようないじめの事例がありますよということが、教育委員会に上がってくる事務的なことについてお伺いいたしますが、1件1件、今22件ありますということなのですが、解決したのもあるだろうし、まだ解決してないのもあるだろうけれども、その1件1件上がってきたものを教育長は教育委員会の定例会に、そういうことを報告するというチャンスは1カ月に一度あるんですが、それらのことは実際に行っていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

教育委員会の折に学校から実数が上がってきている場合に、その数値報告というのを行っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

件数だけですか。件数だけ報告されて何件です。今、どこどこでは、こういうことがあるのかなとか、今、どんな状態だとかという内容的なものは報告されないんですか。そこはどうなんでしょう。私は大切なことだと思うんですけど、今、こういう状態で冷やかされているとか、いじめを受けているとか、そういうものの文書的なものはないんですか。件数だけなんですか、もう一度聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

私のほうからお答えさせていただきます。

毎月の報告を各学校から教育委員会は受けます。それについては、ほぼ件数です。何件あった、ないという報告です。中には、いじめの対応について記入してあります。それについては教育長に報告をしておりますが、重大なものについては、また別様に報告するようになっておりますが、そこら辺の流れが徹底していない面もあるかなというふうに考えておりますが、一応そのように報告は上げております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

それらを受けて教育長は、学校へ訪問されたことがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

いじめ関係で大きなものがあれば、訪問はするようにしております。ただ、行けるといっても、そんなにしょっちゅう行けるわけではありません。大きな問題に関してということで、特に前勤務先の校区に関しては、訪問はできるだけするようにして、事情がわかるだけに訪問をするようにしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

教育長、学校へ行ってくださいよ、学校へ足を運んでください。やはり違うんですよ、子供たちというのは。お客様が入ってきたりとか、それから校内に人が、先生以外の顔を見ると「おはようございます」「こんにちは」、そういう声がかかってくるんですね。私も実際、学校へ入れさせてもらったことがありましたので、そのときは子供たちに声かけて、元気してるかとか、明るいな、笑顔がいいねっていうふうに話をしたりしているんですが、教育長、みずから学校へ足を運んでください、約束してくださいよ。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

今、いじめに関して、こだわりのある学校ということでお答えさせていただきました。学校へは

+

どの学校にも行っておりますし、教育委員全員で年間に1回は、必ず学校訪問をするようにしております。そういう事実もご承知おきください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

年に1回ではだめですよ、何回も行ってください。これは本当に切なる願いです。教育委員の方も年に1回ですか、ご挨拶に回るだけですか。それじゃだめですよ。やはり頻繁に足を運んでください。特に、いじめの起きてる学校、それからどうしても初期対応が必要なところ、それはしっかりやっていただきたい、ぜひお願いしたいです。

それから、3番目の重大事態は発生しているかということなんですが、先ほどあるということなので、件数は何件ぐらいありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えします。

国、県で規定しております重大なものということで数えますと、2件というふうに捉えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

ゆゆしき事態だと、私、捉えているんですけども、それではお聞きしますが、そのいじめの定義、あると答えた2件について、どのような意味の捉え方を課長はしていच्छゃいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

重大な事態とはということで、私のほうでは5つに整理して考えております。

1つ目は、命にかかわる事態、2つ目は、体にけがなどの被害があったとき、3つ目は、金品などの被害を受けたとき、4つ目は、精神性の疾患を発症したとき、5つ目は、いじめにより相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

この5番目の、いじめによって学校に登校できなくなった、この件数としてのもの、あわせて精神性の疾患を伴うものということで、2件ということになります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

長期にわたって休まれている、その相当期間というのは、どれぐらいの期間なんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えします。

法律上といますか、年間30日以上というふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

それでは、いじめを受けた初期の発生時期と、それから不登校になった時期、職員の対応、この3点を聞かせてください。いじめを受けた最初の時期、それから、それが続いて不登校になった時期、そのときの職員の対応というのはどういうふうに、順序立てて皆さんで捉まえていると思うんで、それをお聞かせ願いたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

2件のうち1件は、小学校時代のいじめにより、中学校に上がっても精神的に不安定な状態になっていて、登校したり、登校できなかつたりという生徒であります。

もう一つは、いじめが10月ごろに確認でき、その後、教員のほうでは一応相談を受けて、いじめた側の子供を特定し、その子たちに指導を行った。その時期が確かに初期対応がまずくて、大変におくれておりました。1カ月以上もかかっています。そのために長引いてしまって、2月から登校できなくなったということになります。一度、子供を指導しただけで、おさまったかに感じている教師側の指導の甘さが、またそれをぶり返して2月からの欠席につながった。私どもは、そのように分析しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

この話を聞きますと小学校のときから、いわゆる小学校といえば、大体高学年。そのころから、

そういう感じの何て言うかな、それをここへ来てすぐ、いじめられてきたことじゃないということがよくわかりますでしょう。皆さん、そう思いませんか。いきなり中学1年生になってからとか、2年生になったとか、3年生になってからいじめになって、不登校になったということじゃないじゃないですか。もう既に、本当に渡辺課長は丁寧に答えしてくださっているんで、とてもわかりやすく、そういう点では本当にありがとうございます。

でも、お話を聞いてると、本当に初期対応なんですよ。重大事態が発生したということを、皆さんもお聞きになった定義の中には、とても大変なことなのに、そのことを教育長はどのように、市長にはお話されているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えします。

大きな件については、市長には報告しております。特に、最近の件については、しっかりと報告しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

最近のことじゃないでしょう。10月からと言っているんだから、もうそのころに市長のところに上げとかないと、いけないんじゃないですか。最近って、ほんの最近のことですか。そうじゃなくて、小学校のとき、あるいは中学校へ入って中学1年、2年、3年、こう上っていくときのその過程で、市長のほうに報告されてますかということなんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えします。

今、最近の件というのは、新しく生じてきた事柄だと私は認識しておりました。小学校のころから継続しているという認識はありませんでした。したがって、把握できた段階で、細部までわかってきた段階で市長に、このような状況が起きておりますということは報告してあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

それでは重大事態が発生したと認識した時期はいつなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えします。

今ちょっと確認させてもらいます。3月末です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

市長、3月末と教育長はおっしゃっているんですけども、その時点でお聞きになっておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

口頭報告であったわけでありまして、しっかりした時期は記憶してございませんが、3月でなくもっと最近であります。先月の後半だったと思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

学校から報告を受けてその流れ、こども教育課から、あるいは教育委員会全体、それから市長及び県のほうへ、あるいは先ほど出てきました上越教育事務所という言葉がありましたけれども、そういう過程を経て、本当に1つ発生した重大事態は大変なことなんですね。だからそういうところは目を追って、しっかりとまとめておいていただかないと、今後のこともありますので。

学校からじゃあ報告があったのはいつなんですか、教育課長。教育課長、ごめんなさい、そのときはいらっしゃらなかったんで。

○議長（樋口英一君）

暫時休憩。

〈午前10時40分 休憩〉

〈午前10時43分 開議〉

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

それではその対応、重大事態が発生している対応ですね。今後、どのように対応されていくのか、どのように当市では考えているのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えします。

正直言って、この問題については学校側にも大いに反省していただかなければならないし、まして糸魚川市教育委員会としては大きな反省をしております。ただいまは、まだその対策中ではありますが、この経緯をしっかりと振り返り反省することによって、今後、この重大な事態に対応するためのきちっと流れを確かめて、検証して、今後、二度とこういうことのないようにしていきたいと思っております。まず、重大なことが発生した場合は、学校と市教委だけで解決できるものではないので、素早く県を含めて対策を講じるチームをつくって、そのチームでもって対応していきたい。今回は、その対応がおくれたという反省を十分持っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

これから委員会をつくっていくということなんですが、私、提案させていただきたいんですけども、これは提案というよりも国の指針の中に入っているものですので、私の提案ということではないかもしれませんが、皆さんが考えている委員会でなくて、国もしっかりうたってます、県もうたってます。県では重大事態が発生した場合、公平性、中立性を確保するために、精神保健、心理学、社会福祉士、法律、教育、青少年の健全育成に見識を有する第三者で構成した、いじめ防止対策などに関する委員会や調査委員会を私は設置させていただきたいんですが、お約束していただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

その件を含め、今、糸魚川市いじめ防止基本方針を策定中であります。この策定委員には、また第三者の方に入っただきながら、教育委員会一辺倒の中身にならないように、また、パブリックコメント等を考えております。一般の方々にも知恵を拝借しながら、実効性のある基本方針を定めてまいりたいと考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

これからパブリックコメントだとか、いじめ防止対策にかかわる構成員として校長とか教頭、生活指導主任、生徒指導主事、教務主任、養護教諭、生徒指導部員、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、教育相談員などとなっておりますけれども、これはみんな学校の先生なんですよ。そうじゃなくて第三者機関をしっかりと。普通の初期段階であれば、この委員会で私はいいと思います。初期段階で対応していくには、学校の先生じゃなきゃわかりませんからね、その中に、ああだ、こうだというふうにして大勢入れるということよりも、学校の先生の中でチームをしっかりと組んで対応して、いじめ対策防止、いわゆるなくしてほしい。これはこの委員でいいと思うんですが、重大事態の場合は別と考えてください。これも県も国も、きっちりそのところはうたってますので、国から県に来て、県から市に来たときに、みんな消されていっちゃうんですよ。この部分は、この部分は、この部分はというふうにして、私、県のほうも見させてもらったんですが、大変よくできていて、今度これを基準に、県のを基準にして今度は市がつくるわけなんですけれども、今、起きている重大事態発生のところの構成委員については、しっかり第三者機関として捉えていただきたいんですけど、いま一度お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えします。

ただいま笠原議員の最初におっしゃられたメンバーについては、これは校内のものであります。私の言ったのは市の教育委員会の管轄である、市いじめ防止等対策専門委員会、これをきちんと設置して、重大な案件については対応していくということでありまして、実はそれについても3段階、4段階で計画しております。それも素案を今、第2稿をつくっているところでありまして、もうすぐ第3稿に入り、策定委員の方々にお示しできるようなものになっていくというふうに考えております。そのように私どもも、校内体制だけで全てできるとは考えておりません。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

では次、進めさせていただきますが、ひすいルーム及び適応指導教室に通っている児童生徒の状況、及び通常学級への復帰に向けての支援策というのは、どのようになっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

ひすいルームは正式名称は、糸魚川市教育相談センター適応指導教室であります。学校にはなかなか行けない子供が、この教育センターのひすいルームに通ってきております。今現在は、正式に通級している子供が2人、不定期で利用している子供が3人おります。

この中では、子供たちのまず居場所づくりをしております。子供たちが自分で抱えている悩みや自分の思いを聞いてほしい。それを丁寧に聞き取る相談員、指導員がおります。こういう動きを通してながら学校に戻れる、復帰できるように今支援している状態であります。まずは家に引きこもらせない、まず家を出る、そこから始めております。

校内の適応指導教室は、今度は教室に入れない子供たちです。それは学校内に設けた適応指導教室の先生、それから巡回指導相談員によって子供たちの悩みを聞き取ったり、学習をしたりして教室復帰を目指して力を蓄えているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

いわゆるいじめが原因として不登校になられた方で、学校へ復帰しようとしたときには、いきなり通常学級のほうへ入るようにはなっているのでしょうか。今、ひすいルーム、適応指導教室というのは、また、いじめの対象になってない方ではないかなというふうに今捉えたんですが、私の場合は、2名と3名ということなんですが、いわゆるいじめによって不登校になった生徒の、まず第1段階の学校に入るときは、いきなり通常学級のほうへ入れるということなんでしょうか。ちょっと、そここのところは私のほうが勘違いしてるかもしれないので、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

まさにそのとおりであります。不登校の定義は、学校に行きたくても行けないとか、あるいは学校に行けないというようなお子さんでありまして、その理由はさまざまであります。今、いじめを起因とした子供ということなんですが、1人は、ここのひすいルームにも登校できておりません。もう1人の子は、校内の適応指導教室に現在通っております。学校のほうとしては、いきなり教室に入れるかどうかというのは、子供と丁寧にやっぱり相談をしてみないとできません。また、保護者の考え方もあろうかと思えます。そこを心を込めて丁寧に相談をしながら適応指導教室、ここにずっといるわけではございません。時には教室に行ったりしていますので、交流をしながら教室に完全復帰できる日を目指しているということでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

そこで長期に、学校へ行きたくても学校へ来れない子供のいわゆる義務教育の過程で、冒頭にも言いましたが知・徳・体、これがそがれているわけですから、その指導というのは、学校の先生はそのお子さんのところへ行って、お勉強の力にはなっていないのでしょうか。例えばその課程で6年生なら6年生の課程、中学1年ならその1年の課程で、どうしても習得しなきゃいけない単元というのがあるんですが、日数じゃなくて、授業の内容はどのようにフォローされているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

それは実はケース・バイ・ケースであります。学習保障を無理にすることによって、かえって不登校を長引かせる結果になる場合もあります。したがって学習保障については、そのお子さんや家庭の方と十分相談しながらやっております。その適応指導教室の中でも当然、学習指導はやっております。しかし、むしろ学習指導中心ではなく、その子の心の中にある悩みをきちんと聞いていくこと。その子供が安定して生活できる場所をつくること、環境をつくること、それによって、まずはやっぱり学校で生活するというエネルギーを高めたいなど、それが本当の狙いでありまして、その次にエネルギーが高まったところで学習保障も相談に乗っていくというような形であります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

本当にお話をずっと聞いてきてますと保護者さん、私も1人の子供の母親ではありますが、心が本当に痛みます。先生の教育を受けられない、先日も糸魚川小学校の竣工式に行ったときに、コンセプトは、あしたも来なくなるような学校づくりということでお話されておりました。あしたも、あさっても、ずっと学校に来れないような重大事態ということは初期段階のまずき、これは、ただそのときはまずかった、まずかったで済むものではないんですが、ぜひ。

冒頭、私も言いました。私が助けてあげられることもないので、職員の皆さんが一丸となって、取り組んでいただきたいと思っております。改めてその決意をお願いしたいんですけど、課長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

本当にごんきの念にたえません。学校だけの責任ではありません。私も十分責任を感じております。その責任のもとに、これから学校をきちんと指導して、こんなことが二度と起こらないように、私も強い決意でこれから臨んでいく所存であります。これからもまた頑張っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

渡辺課長は優しいから学校だけじゃないと言うけど、本当は学校、校長ですよ。教諭をまとめていくのが校長です、はっきり言って。教育委員会はその上というのはおかしいですね、それをまとめていくのが教育委員会なんです、学校で起きていることは校長先生と教諭、職員なんです。そのところに責任があるんです、私も何回も言うように申しわけないんですが。

それから当市の基本指針の策定について、当市の指針はこれからだということなんですけれども、流れを少し説明していただくとありがたいです。まだ決まってははいないと思っておりますけれども、その中にちょっとお願いしたいこともありますので、今どの辺まで進んでいるのか教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

先ほど少しお話をさせていただきました。現在、これ第2稿に入っております。第3稿の素案をもとに策定委員をお願いします。その策定委員の皆さんに、この素案をたたき台に基本方針を策定していただきます。その策定したものを8月から9月にかけて、パブリックコメントにかけたいなと思っております。その結果をもとに正式に基本方針を策定し、できれば12月までには示したいなというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

その基本指針策定の中に、国でもうたっておりますので、国の第6章のところにあるんですけれども、雑則の中です。文部科学省の平成25年法律第71号、25年6月28日の官報に載っております。第6章、雑則の中に、学校評価における類似事項というのがありまして、34条です。このように書いてあるんですね。学校の評価を行う場合において、いじめの防止などのための対策を取り扱うに当たっては、いじめの事実が隠蔽されず、並びにいじめの事態の把握、及びいじめに対する措置が適切に行われるよう、いじめの早期発見、いじめの再発を防止するための取り組みなど

について、適正に評価が行われるようにしなければならないとうたっています。これを必ず、これは雑則でもいいし、その他のところでもいいですが、やはりきちっとそれをうたっていただきたいと思っております。

またこの続きは、総務文教常任委員会でもこの続きを、まだお聞きしたいことがたくさんあるんですけども、時間の都合で総務文教常任委員会の中で、またやらせていただきたいと思っております。

それから、質問2の男女共同参画についてお聞かせください。

時間がなくなってきていますので、かいつまんで市長にお聞かせ願いたいんですけども、1つ1つやっていくと時間がないんです。実は最初の審議委員会の構成の割合を、まずじゃあ聞かせていただきたいんですが、先ほどもお話して二、何%という話で、こういう資料で見ると、大体28年度は40%にもっていききたいというふうに書いてあるんですよ。28年ということは、あと26年、27年、28年、3年、少ないと思うんです、少ないんです。だから意識を持って女性の審議委員のメンバー、重複しないように入れていただきたいんですけど、そこはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

25.3%であります。目標には、まだほど遠い部分がございます。意識的にということもあるわけですが、やはり今、いろんな目的を持った組織になるわけがございますので、やはり適材適所というような形の中であったり、また、お願いをする組織、団体というものがあるわけがございますので、そういうところへお願いしますと、そこから上がってくるものにつきましては、やはりその提案をいただいたところを尊重していくことが多いものですから、なかなかうまくいってない部分がございますが、しかし、ご指摘いただいたところについては、私もそうしていきたいと思っております。これは審議委員会だけではなくて全てに対して、そのように捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

この感覚というのは、市長の感覚をそのまま言っただけだとありがたいですね。トップが、国もそうでした。国も県も、要するに総理大臣も県知事もこれからは女性の力が、人口減になってきている、じゃあ女性の力をうんと発揮してもらおうよと、女性にもしっかり働いてもらいましょう。要するに、お金を稼いでもらいましょうと言ったほうが、わかりやすいかもしれないですね。女性の力を発揮、見出すために、ぜひ意識を持ってというのは、何で意識を持ってと、私、言うかという、ここにも書いておきましたが、チーム糸魚川は企業が入ったり、さまざまなことをしているんですけども、その下に必ず女性がいるはずなんですけれども、写真写りのいいときだけは出てきて、その中に女性が1人も入っていないと。私は物すごく方々から、何でここに女性が入って

ないの、女性が入ってないのとお叱りを受けてる状態ですが、そのときにある社長さんに、おたくの会社からは女性を出してください、こちらの会社からは女性をどうですかと市長みずから声をかけていただければ、とってもありがたいんですが。

そうしますと、このハッピーパートナー、この企業の人たちだけでもいいじゃないですか。これなんか、すごく恩典があるそうですね。入札参加ができる、広報にただで宣伝を載せられる、すごいいいものになってるじゃないですか。たくさん市内で登録されてます。本当に皆さん、すばらしい会社ばかりなので、この会社の方たちからチーム糸魚川でまたやられるときに、この次は女性を出してきてくださいよと、これ市長が言ってください、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

チーム糸魚川については、やはりチームワークを高めたいという形で皆様方と今進めておる活動でありまして、全ての市民が集まっていただければいいんですが、なかなか集まらないという形の中から、代表者の方だけ集まっていただけでございます。ですから、あの組織の会員の皆様方や団体の皆様方全員の中には、女性も当然もう多く来てます。全市民が入る形になって、進めさせていただいております。

そしてチーム糸魚川は、本当に白色のところから始めさせていただいて、そしてまずはイベントをするためのイベントじゃないんだと。やはりチームワークをどうやって高めようかという形から入っていったわけございまして、男性だけ写っているから男性だけでやっているんだと、やっていけばいいんだということではございませんので、ご理解いただきたいと思っております。

他のものについては、しっかりと今ご指摘の点につきましては、意識を込めまして進めさせていただいておりますし、また、職員の採用についてもはっきり、最近はもしかしたら女性のほうが多くなっている部分があるかもしれませんが、そのようにその部分部分については、そういったところもありますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

笠原議員。

○1番（笠原幸江君）

こういう糸魚川男女共同参画、これらをつくる時は女性が多いんですよ、委員構成を見ると。でも、ほかのところの審議委員会を見ると男性が多いんです。地域審議会もしかりです。

市長、私は17年の12月議会で、男女共同参画で一般質問したことがあります。そのときに市長は、やはり女性の意見を聞くことを私はしていきたいとおっしゃっているんですよ。これは議事録に載ってるんです。17年12月に、私も一度やってます。でも、市長はそのあと何とおっしゃられたかと言いますと、男女の比率じゃないんだよと。でも、いろんなところで意見を聞いてるから。そうじゃなくて、やはりこういう何かを立ち上げたときに、どうしてもそういうメッセージを発信してくださいと言ったのは、写真に1人でも載っていれば、市民は、ああ、考えてくれてたん

だなどということなんです。以上、お願いしたいんですが。そんなことを申し述べて、私の一般質問を終わります。

きょうはありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。〔４番 吉川慶一君登壇〕

○４番（吉川慶一君）

おはようございます。

ひめかわの会の吉川慶一です。

発言通告書に基づき質問をさせていただきます。

１、人口の減少に伴う今後のまちづくりについて。

日本の将来人口の推計によると２０１６年以降、人口が減少傾向と予想発表され、地方においては高齢化、少子化により、大きく人口減少が進むと言われております。市が目標とする３０年先まで定住人口４万７千人を維持するため、どのような施策を具体的に考えていますか。目標数値を今一度、新幹線開業前にお伺いします。

また、「チーム糸魚川」で糸魚川市への観光誘客を企業と具体的にどのように進めるのか、お伺いします。

(1) 新幹線開業に伴う地域への影響を生かし、まちづくりに利用し、経済波及効果をあげる具体的計画について。

(2) 経済活動として、企業誘致で雇用拡大、商業の発展が通常を考えだと思うが、現在は人口減少傾向にあり、食い止める策として住居都市にするとされる。そのために、魅力ある地域を作る施策はあるか。

(3) 地域の宝を十分工夫して活用し、また、魅力的なサービスで観光客を集客するために地元の遺産を発見する取り組み（例 糸魚川世間遺産などを作り、観光に生かす）について、どのように考えているか。

２、空き家を生かす観光ビジネスについて。

全国には多くの空き家があり、その空き家を利用し、IT関連の企業誘致、UIJターンで有効に空き家を活用したビジネスがたくさんあります。市内でも年々空き家が増加傾向にある中、新幹線開業を迎え、空き家を利用した観光ビジネスの計画についてお伺いします。

(1) 古民家を改修し、農家民宿、クラインガルテン（市民農園）についての計画は。

(2) 農林、観光地等の土地・空き家情報をネットワーク化し、都市の居住者に紹介する取組予定は。

(3) 空き家を改修して、町並みの修復、保全保護の計画は。

(4) 空き家を有効活用する問題調査を実施し、街の活性化を図る予定は。

(5) 空き家で田舎暮らしを売り込む計画は。

3、津波ハザードマップ・津波避難地図について。

このたび、県の津波被害想定調査結果を基にした避難経路図が配布されました。今後、避難時の目安になると思いますが、当市は海岸に多く面し、隆起があり、予想しがたい津波の危険性があります。このハザードマップの活用について、市民に周知する方法と訓練計画についてお伺いします。

- (1) 津波による河川逆流時の避難の心得について。
- (2) 津波警報等の区分による市民広報の方法について。
- (3) 避難場所の整備と避難経路の徹底について。
- (4) 各地区における要援護者の支援について。

4、子育て支援の現況について。

今後国では、運営基準の明確化、財政の安定化、指導員の身分、障害児の受け入れ、待機児童、地方の実態、運営等を検討すると言っていますが、日本一の子どもを育てていく計画の中で子育て支援、学童保育の位置づけはどうかお伺いします。

(1) 子育て支援について。

就学前の子どもを持つ親を対象に、発達や子育てに関する相談や発育・発達を促す活動を行うこととありますが、当市の子育て支援の現況についてお伺いします。

- ① 子育て支援サービスの現状は他市と比べてどうか。
- ② 市営と民営のサービスの違いはあるか。
- ③ 市内の待機児童の実態を把握しているか。

(2) 学童保育について。

学童保育は、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図るものでありますが、市内に施設がどのぐらいあって、待機児童の数と待機により働けない保護者の現況はどうか。また、課題はないかお伺いします。

1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

吉川議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の1点目につきましては、新幹線の開業に向けて、現在、スポーツ合宿や体験教育旅行の誘致などに積極的に取り組んでおります。

2点目につきましては、0歳から18歳までの子ども一貫教育の取り組みを進める中で、医療費助成や保育料軽減などの少子化対策を着実に実施させていただいております。

3点目につきましては、議員ご指摘の糸魚川世間遺産につきましては、糸魚川ジオパーク活動の中で取り組んでおります。

2番目の1点目、2点目、3点目及び5点目につきましては、今後、空き家を活用した糸魚川の

魅力や、住まい、仕事、コミュニティといった総合的な受け入れ体制を検討してまいります。

4点目につきましては、22年度に空き家の実態把握調査を実施いたしておりますが、今年度、再調査を予定いたしております。

3番目の1点目につきましては、安全が確認できるまでは河川から離れて、より高いところに避難することが基本であると考えております。

2点目につきましては、注意報、警報とも防災行政無線による一斉放送、安心メール、エリアメールによる一斉配信、市、消防、消防団の車両広報により住民に注意、または避難を呼びかけます。

3点目につきましては、地区ごとの一時避難場所及び避難経路を明示した津波ハザードマップを基本に、避難訓練の実施や必要に応じて避難場所、避難経路の整備を行ってまいります。

4点目につきましては、情報提供に同意した要援護者の名簿を各地区に配布するなどして、地域の皆様から要援護者の避難等についてご協力をお願いいたしております。

4番目の子育て支援の現況についてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくをお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

吉川議員のご質問にお答えいたします。

4番目の1点目の1つ目につきましては、地域の実情に合ったさまざまなサービスがあるため、一概に他市と比べることは困難ですが、総体的には県内では進んでいるほうではないかと捉えております。

先般実施した子育て世代へのアンケート調査においても、当市のサービスに満足していると回答された保護者も多くおられます。

2つ目につきましては、保育園では基本的なサービスの違いはありません。

3つ目につきましては、市内に待機者はいないと認識しておりますが、希望する保育園に入園できず、他の保育園に入園していただく事例があります。

2点目につきましては、現在、放課後児童クラブは9カ所、児童館が1カ所ありますが、そこの待機児童はないと認識しております。課題は、指導者の確保や利用時間の拡充等であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ありがとうございました。

2回目をお願いいたします。

まず、人口減少について、若干お伺いいたします。

平成17年度の合併時のときに県のデータでは、市は4万9,844人で、平成12年度が5万3,021人、平成12年から17年で3,177人減、約6%減になり、1世帯当たりも2.88%の減少、県平均でも1.8%に比べて大きく減少しております。この減少を本市としてどう捉えているのかどうか、また、新たにこの施策等あるのかお伺いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

吉川議員の今、ご質問の数字につきましては、おっしゃるとおり事実であります。

これまで合併してから10年目を迎えておりますけれども、大きくは、やはり社会動態とすれば、小さくくりの数字で言えば転入が1,000人、転出が1,200人、自然動態で言えば、産まれる子供が300人、亡くなる方が700人、この差し引きが600という数字になります。これが合併してからの平均であります、600人が毎年減ってきているという状況であります。このことについては糸魚川市だけではなくても、本市にとっても経済面、あるいはまた住民生活もろもろの中において、大きな影響があるというふうにも捉えております。

これまで市の施策とすれば、大きくはやはり雇用環境、特に働く場の創出が1つの柱、もう1つは結婚支援、3つ目は子育て環境、子供を産み育てやすい環境ということで、大きくは3つの柱にこれまで取り組んできたものであります、その結果としても、なかなか予定した効果が得られていないという一面もあるというふうにも考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

今、詳細にわたっていただいたんですが、1年間に600人が減少傾向にあると、これは全国的に統計からいっても当然だと数値にあらわれておるんですが、それにはたとえ600人であろうと、600人を少しでも減らすことをやはり前向きに施策をしていかないと、このままどんどんどんどん減少していく懸念が私はあると思うんです。

やはり先ほど言いましたように雇用、子供、そういう3本の柱を重点的にやるということはいいいんですが、いま少し具体的に、もう少しやるべきでないかなと私は思いますので、ぜひ見直しをしていただきたいと、こう思いますが、これどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

現在、庁内でありましてけれども、部課長で構成します人口減少のプロジェクトチームを4月から立ち上げてきております。この中で具体的な施策、いわゆる即効性のあるものと、中長期的なものも含めてでありますけれども、できるだけ効果の出る部分を年度内にもということで、年度内実施も含めて、現在、施策の立案をしているところであります。大変難しい課題であると思っております。

すけども、何もしなければ今、いろいろテレビ、マスコミ等で取り上げられているような状況がやってくるということですので、国の動きは国の動きとしながらも、本市としての動きはしっかりと施策の実施を通じて、効果を検証していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひ力を入れていただきたいと思います。

何とこのままでは新幹線が通過して、開業されても寂しいまちではいけない。やはり活気あるまちにしていくためにも必要不可欠と、こう思っておりますので、よろしく願いいたします。

また、比例しまして、65歳以上が1万6,000人、28%が高齢化になっております。山間地のみならず市街地まで、この状態が進んでおります。この高齢化もやはり同じ問題になろうかと思いますが、どんどんいくとまちづくりが衰退してまいります。ぜひいま一度、環境整備の見直しをしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（樋口英一君）

暫時休憩。

〈午前11時25分 休憩〉

〈午前11時25分 開議〉

+

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

高齢化が進んだるのでぜひ高齢化対策として、この対策について、いま一度、答弁をいただきたいと思います。

○議長（樋口英一君）

暫時休憩。

〈午前11時26分 休憩〉

〈午前11時27分 開議〉

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

質問内容と若干違うということでございますので、じゃあ質問を変えます。

まちづくりについてお伺いします。

今現在、まちづくりをしております。これはもう当然、大きな課題を持って糸魚川市は取り組んでおると思いますが、やはりまちづくりには、地域性をいかにして生かしていくかということでございます。それには地域の宝を十分生かすと、魅力あるものを使うということだと思います。それで地域の特徴とし、地域遺産、糸魚川の世間遺産、例えば人間遺産、それから地域の宝、植物、建物、動物等々の自慢できるものをいかに調査し、これらを生かすものをひとつ取り組んでいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1回目のご答弁でもお答えしたとおり、やはり交流人口拡大につきましては、また観光につきましては、やはり糸魚川の個性ある、特徴あるものをお示ししながら、大勢の方から来ていただいて楽しんでいくことが大切であるわけであります。

今、我々糸魚川市が取り組んでおります世界ジオパーク、まさしくそのとおりであるわけであります。我々の住んでおる大地に培ってきた歴史文化、そしてまた、それにつながる事柄についてを示していくことが大事、そしてインパクトある提供の仕方が大事であるわけであります。

例えば1987年に、フォッサマグナと地域開発構想という形で断層をお示ししたわけですが、よそにないものであっても、なかなか注目されなかったわけであります。今、世界ジオパークという形の中で全国に大体33、各基礎自治体においては170の地域があるわけでありますが、そこに今、糸魚川という事柄が繋がっていったるわけであります。それを考えたときに、やっぱり組織的にも、形態的にも進めなくてはいけないわけでありまして、お示しの世間遺産にいたしましても、1つだけで言うてもだめなわけございまして、それをまた広めていくという普及啓発というのかなり時間がかかるわけございまして、私といたしましては、今のジオパークの中で、それを広げていければ十分でなかろうかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

市長の進めてるジオパークに取り組むと、答弁、了解しました。

でも関連として、今後のひとつ広い宝、糸魚川には多くの宝があるわけですので、大いに活用していただきたいことをお願いいたします。

続きまして、空き家を生かす観光ビジネスについてお伺いたします。

空き家は、非常に多くの空き家が出ております。やはり観光に生かせないかということでございますが、この空き家を実際調査されておりますか、お伺いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

空き家の調査につきましては、平成22年度に行政区なり区長さんに依頼して1回調査を行っております。ただ、これについては全市的に行っているといえますか、上がってきたものが、空き家が全てかというわけではありませんでした。その中では先ほども申し上げたとおり1,236棟、空き家があるということになっております。そんなものですから、ことし新たに空き家がじゃあどのくらいあるのかという調査を行いたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

22年度調査し、1,200棟ほどの件数があったということですので、早目に調査をしていただいて、有効利用できるものは、大いに利用していただきたいと思います。このままやはり放っておくわけにはいかないと思います。やはり防災、防犯、活用する方法は幾らでもあるんじゃないかなと思います。主に調査した後に、どういうふうにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

今ほど申し上げました1,200棟余りの空き家は、目視による調査結果でありますので、実際に家屋の中に入って調査したというものではありませんけれども、倒壊寸前のもので含めての数であります。

今回、実態調査する中では、活用可能な空き家という部分も当然把握したいわけありますので行うわけですが、活用策の1つとすれば、今現在、市で行っております空き家バンク、空き家情報提供制度によって、特に都会からの移住も当然活用していきたいというふうに思ってますし、現行、今、空き家バンクの運用の中では、市外、県外の方もご利用いただいておりますけれども、市内にお住まいの方も空き家バンクを利用して、住みかえ等で使っておられる方もいます。市外、市内を問わず、空き家を使っていただくことも大事なことだというふうにも考えておりますので、今後、ことしやる実態調査もさらにまた充実した部分では、空き家バンクに登録をしていただく働きかけをしていきたい。

一番問題といいますか、建物を所有されておられる方のお気持ちが、倉庫がわりに使いたいとかということで、結果的には、それが管理されない状態のままになっている傾向も強いものですから、

ほかの方に使っていただきたいというお気持ちがあるならば空き家バンクに登録をして、市のほうも、あるいはまた県の宅建協会とも連携しながらPRをしていきたい、人口を呼び込みたいという考えでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

空き家バンクの利用、糸魚川でもホームページ等に空き家が数多く載っております。

そこをお願いですが、空き家をリフォームし、空き家を逆に売り込むという方法は例えばどうでしょうか。チャレンジショップ、商店をするとか、例えば例でございますが高校生カフェ、民宿、それから企業の研修所、グループ集会所、体験施設、こういう多目的なものをつくって貸せると、こういう試みはどうでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

現在の空き家を、そういうふうにお店とか、いわゆる企業化して店舗化するといいたまいますか、そういう活用もあると思っていますし、現在、空き家バンクを通じての部分というのは、行政で支援しておりますのは空き家改修補助ということで、糸魚川に移住されてくる前提で空き家を買われたり、借りられたりというケースに対しては、これまで2件の実績があるわけなんですけども、今のところ行政側、市として、そういったものを準備してという計画はありませんけれども、民間の動きでも直近では、農家民宿という新しい情報が2件、糸魚川市内で起きようとしています。そういった部分で市としてできる応援があるとすれば、応援もしていきたいと思っておりますけれども、そんな民間の動きもあります。今、民間と行政との連携という部分で、応援できるところは応援しながらというふうにも考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

市でもリフォーム補助は出て承知しておりますが、ぜひこれをもう一押ししていただいて、有効利用できるような施策をしていただければいいんじゃないかなと、これを要望します。ひとつアイデアを活用し、大いに糸魚川を売り込むことをお願い申し上げます。

3番目の津波ハザードマップ、津波避難地図についてお伺いいたします。

さきの防災会議で、津波対策について見直し、協議されたと思いますが、災害発生時に予想外の災害発生になります。管内の津波は1.8から3.8とお聞きしておりますが、当市は低地、中小河川等があり、津波の遡上の危険が予想されます。

それについてお伺いいたしますが、津波ハザードマップに避難経路や避難場所が記載されているが、どのようにして決められたのか。例えば行政で決めたのか、地域住民によって決められたのか

お伺いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

避難経路、避難場所につきましては、2カ年にわたる津波避難訓練の際に、地区の皆さんから検討をしていただいた、その結果をハザードマップに反映させていただいたものでございます。地区の皆さんが、みずから検討をしていただいたということが、大変重要なことであるというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

地域で決められたということですので、大いに活用していただきたいし、訓練をお願いします。

続いて、津波ハザードマップを見ると、姫川のほか浸水する河川と、全く浸水しない河川表示があるが、その違い。また、河川の遡上調査は実施したのかどうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

河川による浸水の違いでありますけれども、河口付近の地形、それから河川の形状など、地形的要因により浸水の程度が違うということでございます。

また、津波遡上の調査であります。姫川につきましては県内の14河川とともに検討をされておまして、被害が及ぶような遡上はないということで、昨年末に新潟県から公表をされているものでございます。

中小河川につきましては、今年度、県において調査をするということで、当市では数河川が該当するということですが、これにつきましても被害が及ぶような遡上は、ないのではないかと、いうふうにお聞きをしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

姫川は表示のとおり、また、中小河川については、今年度、さらに調査を加えるということでございます。了解させていただいたんですが、ぜひそれらを住民の方にわかる表示と、それと訓練

等々をしていただいて、ひとつぜひ災害があったときには、違いのないようにお願いしたいと思います。つけ加えておきます。

それから市内の行政区単位で訓練を、毎年、避難訓練等々をやっておられると思いますが、結果を把握し、次回に生かされる検証はしてあるのかどうか、どうでしょうか。各地区からと連携はとれているのかどうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

訓練実施後、各地区、それから関係機関などから訓練の結果、課題とか要望等を集約をしております。その内容を検証をしております。その結果につきまして、各地区にも報告をさせていただいたり、課題、要望等につきましても情報の共有を図るとともに、その対応策、具体的には迅速な情報の収集、または情報の発信、避難路の整備やハザードマップの整備、また、要配慮者への対応の検討など、ハード・ソフト両面にわたって、できるところから取り組んでおるというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひ生かされたものにしていただきたいと、フィードバックは必ずしていただきたいと思っております。やはり災害は、忘れたころにやってくるとよく言われます。そういうことで、訓練だけは十分ご指導をお願いしたいと思いますので、よろしくお伺いします。

続きまして、4番目の子育て支援の現況について、お伺いいたします。

先ほどもお聞きしとるんですが、待機児童がおらないということを知ったんですが、やはり世の奥さん方からお聞きいたしますと、どうも預け先が自分の地域内といたしますか、広く見ますと預け先が見つからないけん、仕事をどうもやめなきゃならんということもお聞きします。ぜひ保護者の声を聞いていただいて、そういうところのないように、少しでも緩和できるような配置をしていただきたいとお伺いいたします。

また今後、子供はやはり大変貴重なものと私も自覚しておりますので、ぜひ子供さんのそういうことを、大いに地域の声を聞いていただきたいと思っております。

1つだけ聞きますが、先ほどそういうところはないと言うんですが、現況で実際、声はないのでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

毎年、保育園の入所申し込み等をとっとるわけですが、中にはご希望される保育所に行けないんだけど、違う保育所に行っていただくというケースはございますが、今、議員おっしゃるような、働くことをやめて保育しなきゃいけないという声は上がっておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

次長から強いお言葉をいただきましたので、そういうことのないように、ひとつよろしく願いいたします。

続きまして、学童保育の件ですが、国では全面的に、放課後児童クラブを拡充する方針であると聞いております。これについて若干お伺いしますが、当市は課題、問題はないでしょうか。いま一度、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

現在、放課後児童クラブを9カ所でやっております。課題といいますと指導員、これは有資格者なんですけど、指導員の確保と、あと時間を延長してほしいというご希望があります。それらの今度は拡充に向けて、検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひ女性の躍進、また、お力をお借りしなければならない時代がまいります。ぜひそういうことに配慮をしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それから平成15年から、子ども・子育て支援制度が始まっておるわけですので、当市の子育て家庭状況のニーズを調査し、不備のあるところがありましたら、不備を早急に整備していただいて、ぜひ日本一の子育てに邁進していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

以上をもちまして終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、吉川議員の質問が終わりました。

13時まで昼食時限のため休憩いたします。

〈午前11時51分 休憩〉

〈午後 1時00分 開議〉

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。〔6番 保坂 悟君登壇〕

○6番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、海洋高校を核とした地域活性化策について。

(1) 海洋高校との産官学連携事業の進捗状況について。

糸魚川市は海洋高校と積極的に連携した活動を行っており高く評価しております。これまでの取り組みと今後のビジョンはどうか。

(2) 「海洋高校を核としたまちづくり宣言」について。

糸魚川市はすでに海洋高校との産官学連携の事業化を進めていますが、更に一步進めて、海洋高校を地域活性化の拠点と位置づけ、交流・定住人口の拡大を市全体で取り組むことを市内外に宣言してはどうか。

(3) 全国発信できる海洋高校の魅力づくりについて。

島根県隠岐島前高校の「高校魅力化プロジェクト」のような取り組みはどうか。また、地域全体で海洋・水産業界で一流の人材を育成するシステムを目指してはどうか。

(4) 卒業生が糸魚川市に定住したくなる環境整備について。

水産系研究機関の誘致や起業支援、住宅支援を手厚くしてはどうか。

2、子育て支援について。

(1) 保育の環境整備について。

① 病後児保育の進捗状況はどうか。

② 学童保育の預かり時間の延長をすべきと考えるがどうか。

③ 24時間保育実施に向けた取組状況はどうか。

④ わんぱくホリデーの増設はどうか。

(2) 子どもの遊び場の環境整備について。

① 少子高齢化やまちの構造変化に伴う公園立地の再検討はどうか。

② 公園施設の利用状況や遊具等の点検など管理状況はどうか。

③ 体育館等の空き時間をインターネットで公開し、子どもの遊び場として開放してはどうか。

④ キャンプ用テントなど貸し出し備品の画像紹介と使用状況をインターネット公開してはどうか。

(3) 経済力による学力差を生まない取り組みについて。

県内では燕市の英語教室「J a c k & B e t t y 教室」や三条市の習熟度別教室「学びのマルシェ」のような取り組みが必要と考えるがどうか。

3、高齢者福祉について。

(1) 高齢者お役立ちハンドブックの作成と配布について。

福祉サービスや補助制度について、高齢者やその家族が一目でわかるハンドブックが必要と考えます。文字が大きく写真やイラストを多く使い、対象条件や金額が分かりやすいものをつくるべきと考えるがどうか。

(2) 地域包括ケアシステム構築について。

- ① システム構築に向けて糸魚川市の課題はどうか。
- ② 認知症患者徘徊対策やその家族支援の強化はどうか。
- ③ 医師会と福祉事務所の連携はどうか。
- ④ 介護や医療関係者の人材確保はどうか。

(3) 終末期医療とリビング・ウィル（生前の意思）について。

終末期医療のあり方や亡くなる前の意思表示について、関心を持つ方が増えております。そこで専門家を招いての講演会や市民講座を開催してはどうか。

4、安心・安全な生活環境整備について。

(1) 防犯対策について。

女性や子どもを狙った犯罪報道が絶えません。官民連携による計画的な防犯カメラの市内設置を推進すべきと考えるがどうか。

(2) 交通安全対策について。

- ① 農道等の整備により優先道路が分かりにくい交差点などの安全対策はどうか。
- ② 高齢者社会に向けた段差のない歩道整備や側溝へのふたの設置などの整備状況はどうか。

(3) 遭難防止策について。

- ① 携帯電話の不感地域の解消状況はどうか。
- ② 入山する者にGPS端末か携帯電話の所持を条例で義務化してはどうか。また、市でGPS端末の貸し出しを事業化してはどうか。

(4) 鳥獣害対策について。

ジビエ（鳥獣肉）の利活用の研究をすべきと考えるがどうか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目と3点目及び4点目につきましては、海洋高校はこれまで魚醤をはじめ各種の食品加工品を生産販売するなど、水産高校ならではの個性的な活動が高く評価されてきております。

今後とも県内有数の水揚量を誇る能生漁港などを背景とした優位な立地性を生かし、地域の宝と

して人材育成の拠点となるよう、また、新たな起業が地域振興につながることに期待をし、多面的に支援してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、海洋高校を核としたまちづくり宣言までは想定しておりませんが、海洋高校の活動、活躍を広く情報発信してまいります。

2番目の子育て支援のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくをお願いいたします。

3番目の1点目につきましては、福祉サービスや高齢者の生活に必要な情報が、わかりやすく、見やすいハンドブックになるよう検討しております。

2点目の1つ目につきましては、生活支援、介護予防などの地域支援事業の充実を図ることが課題となっております。

2つ目につきましては、認知症サポーター養成講座と、高齢者など見守り支援ネットワーク事業に取り組んでおります。家族支援といたしましては、介護家族の相談会や介護入門講座を実施いたしております。

なお、今年度は認知症カフェの実施に向け、現在、検討中であります。

3つ目につきましては、昨年度、発足いたしました在宅医療連携協議会の中で、医師会との連携を深めてまいりたいと考えております。

4つ目につきましては、研修の場の提供や医師及び医療技術者への修学資金貸与事業などの実施により、人材確保に努めております。

3点目につきましては、在宅医療連携協議会において、今年度、在宅医療と、みとりに関する市民啓発の事業を検討中であります。

4番目の1点目につきましては、防犯カメラは商店街などが設置いたしておりますが、現時点では、市では設置する予定はありません。

2点目の1つ目につきましては、基本的には道路の幅員や広いほうを優先道路といたしており、警察署や道路管理者、地元と協議の上、今後も各種安全対策を実施してまいります。

2つ目につきましては、地元要望を踏まえて、順次、計画的に整備をしてまいります。

3点目の1つ目につきましては、これまでも住居地域において不感地域の解消を図ってまいりました。

2つ目につきましては、入山する方は自己責任で安全に登山をするよう注意をお願いしたいと考えており、実施する予定はありません。

4点目につきましては、捕獲数の確保や食肉加工施設の整備などの課題があり、活用方法について猟友会などと意見交換してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくをお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目の1つ目につきましては、年内の開設に向けて医師会及び糸魚川総合病院と協議し、準備を進めております。

2つ目と3つ目及び4つ目につきましては、27年度からの新たな子ども・子育て支援に向け、今年度、子ども・子育て会議で検討してまいります。

2点目の1つ目につきましては、地元から新たな公園の設置要望は現在のところありませんが、宅地化や地元要望を踏まえて検討してまいります。

2つ目につきましては、特に利用人数の集計はしておりませんが、日ごろの現地パトロールで利用状況を確認しております。また、管理状況については、定期的な遊具等の点検を実施しております。

3つ目につきましては、無料開放した場合、利用者や利用内容が多様になり、利用者の安全確保が困難となりますので、利用許可による使用を考えております。

4つ目につきましては、キャンプ用テントは、青少年健全育成活動の実施団体から使用していただくために市が保有しているものです。空いているときに貸し出しが可能な物品については、今後、ホームページで紹介してまいります。

3点目につきましては、燕市や三条市のように土曜日を活用した事業は考えておりませんが、夏季休業中に、中学生を対象とした学習を補う事業を検討しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

それでは2回目の質問、よろしくお願いいたします。

まず、1点目の海洋高校の件であります。今、ちまたでは、海洋高校のOB会であります能水会と何か連携して、動きがあるように聞いておるんですが、その辺、進捗状況がわかれば教えていただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

今までの活動は学校の中で、例えばオーシャンプロジェクト、疑似体験会社をつくっていろいろと取り組んできたわけでありまして、いろんな制約がある中で、学校を出てクラブ活動としてまた新たな展開ができないかということ、私どもも一緒になって模索してまいりました。

その中で運営の母体となっただけのところ、今、議員のお話にありますように能水会というところで、ある程度、学校、能水会、行政との間で、テーブルを囲みながら今進めておるところでありまして、その方向で進めていけるんじゃないかなという状況に、今なっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

大変私も期待しておりますし、わくわくするような展開になるのではないかというふうに思っております。また、今後のスケジュールとか、その中身、事業の内容について、また機会あるごとに報告をしていただきたいと思います。

続きまして、海洋高校を核としたまちづくり宣言であります。

総務省では平成25年2月に地域活性化の拠点として、学校を活用した地域づくり事例調査を発表しております。その具体例として、島根県立隠岐島前高校の島前高校魅力化プロジェクト、また、三重県立相可高校の高校生レストラン、あと山形県立長井工業高校のロボットに強い高校などが紹介されており、どれも地域の特性を生かしたものであります。

糸魚川市も地域の特色である海洋高校で、全国に名をはせる覚悟を決めるべきだと思います。その覚悟の一步が、このまちづくり宣言だというふうに私は思っております。糸魚川市がまちぐるみで海洋高校をサポートしているとなれば、市内の生徒を通わせている保護者はもちろんなんですが、全国からこの海洋高校へ通わせている保護者にとっても、市が海洋高校をサポートしてるということがわかれば、非常に安心して子供を通わせていただけるんじゃないかと。そういう思いを込めまして、あえて宣言ということを提案しとるんですが、再度のコメントというか、回答がいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

海洋高校の今までの活動につきましては、例えば東京糸魚川会において北陸新幹線開通に向けて高校生のアイデアで、まちづくりでありましたり、また、学校側のほうで今いろいろと事業を考えていただいている中では、糸魚川版デュアルシステム構想というふうなお話も聞いたり、非常に全国的にも珍しい取り組みをしていただいているんじゃないかなというふうに考えております。

北陸4県の中で専門の水産高校が海洋高校だけありますので、冒頭、市長が答弁申し上げましたように、いろんな各方面で糸魚川市としても支援してまいりたいという考え方でおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

宣言までは至らないけど、市としてしっかりサポートしてくださるということですので、本当に学校を拠点とするという試みについては、子供の目線からも大人の目線からも非常に入っていきやすいですし、また、その卒業生にとってみれば、やっぱり自分の学校が元気だということは、非常にまた糸魚川を応援したくなるような気持ちも育ってくると思いますので、その辺をぜひくんでいただいて、取り組みをお願いしたいと思います。

次に、全国発信できる海洋高校の魅力づくりについてであります。糸魚川市は今、既におっし

やられているとおり、商工農林水産課が中心となって海洋高校と産官学連携による6次産業化を進めております。

今後は、糸魚川市は0歳から18歳までの一貫教育方針を掲げる糸魚川市教育委員会と海洋高校が一層の連携を行って、いわゆるふるさと教育、キャリア教育、グローバル教育、IT教育、ジオパーク教育の拡充を図り、社会の変化に対応できる人材育成のために教育委員会の英知を生徒、子供たちに注ぎ込んでいただいて、糸魚川にいながら全国で活躍できるような、そういう人材を糸魚川から輩出していくというようなプログラムというか、そういった取り組みをぜひしていただいて、定住人口と交流人口の拡大に結びつけていただきたいと思いますんですが、ちょっと話が大きくて捉えにくいかもしれませんが、要は、海洋高校に対して教育委員会が人材育成で支援していくというような、そういう考え方はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

教育の中に、そのものに教育委員会が入っていくことは県立高校ですので、なかなか難しいのです。これは今までも答弁されてきたことだと思うんですが。ただ、私たちが考えているのは、キャリア教育という面から、海洋高校の生徒さんたちが、さまざまなプロジェクトで活躍している場面を中学生や小学生に見せたい、そのように考えております。そこに参加することによって、海洋高校の生徒さんの活動も活発になると思いますし、また、小中学生にとっては、非常に魅力的なキャリア教育につながるのかなというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ありがとうございます。

まさにそういったかわり合い、小・中・高の流れの中で、魅力ある、小中学生から見れば先輩に当たる高校生なんですけども、その高校生が生き生きといろんなものに積極的に取り組んでいる姿、また、海洋高校は水産高校でありながら、今ここに掲げているんですがグローバルなこと、また、社会人としてのいろんな技術、技能というものを身につけているというところを、やはり後輩たちに伝えていく場というものを、ぜひ取り組んでいただきたい。できれば今度、卒業生の姿とか、そういう人たちとの交流を交えていくような、まさに地域ぐるみで海洋高校を軸にした人材育成機関というか、地域というか、そういったものを構築していただきたいので、今おっしゃられたことが具体的にできると思うんですけど、その辺、もう一度お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

まだ具体的に、どの場面ということではありませんが、海洋高校の皆さんの活動を通じて検討してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

次に、また魅力づくりなんですけど、国内で海洋・水産系の高校なら新潟県立海洋高校であるというふうに言われるようなレベルを目指すべきと私は考えております。

一昨年ですかね、国ではスーパーサイエンスハイスクールという取り組みを行って、理数系に強い高校を育てるという取り組みをしました。新潟県と糸魚川市が協力して国に要請していただいて、仮称ですけども、スーパー海洋高校か、スーパー海洋ハイスクールか、スーパーマリンハイスクールか、先ほど田中議員と言ったオーシャンハイスクールなのか、ちょっとわからないんですけども、そういった水産系、または海洋系に特化して国からも支援をいただきながら、やっぱり全国からやる気のある学生を集めるような取り組みをして、そういったことが全国の小中学生の耳に届くような取り組みを、ぜひ私はやっていただきたいと思うんですが、その辺、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、保坂議員がご指摘の点につきましては、ぜひとも取り組みたい点だと思っておりますし、我々の地にある海洋高校の展望というのは、非常に開けているものと捉えております。

しかし、県立海洋高校ということになると制約がかなりあります。その辺をどのようにやっていくか。それで今、進めるところが、県立海洋高校の枠から少し外れてOBの皆様方、そしてただ単に企業に入れるんじゃないで、企業とも言えず研究や、またそして販売の疑似体験や加工技術、そういったものができるシステムをつくりながら、その業種に対したり、また、食品加工のやはりテクニックを学んでいただいたり、いろんな多面的にやっていけるような体系をそこでつukれないかと思っております。

ですから、学校の今の枠の中で無理をするのではなくて少し楽にやっていけるような対応で、今、地元の皆様方や企業の皆様方、そしてOBの皆様方、そして行政の中でそういう仕組みをつくって、より海洋高校の魅力を拡大していきたいと思っております。まだそこまで固まってございませんが、そういう方向に、今、進めさせていただいております。また、それから卒業後もそういった海洋高校で学んだものを生かせるようなものにつなげていければ、特に海洋高校というのは、さらに光ってくるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ありがとうございます。

私も今言おうとしたことと、市長がおっしゃっていただいたとおり、県立というやっぱり大きな壁がございまして、ただ、県立という部分で言うと世界ジオパークのまち糸魚川市には、いわゆる県立の施設というのが皆無に等しいというふうに私は受けとめておるんですね。そこで海洋高校というこの施設を、市内の港湾も含めてですけども、やっぱり新潟県から海洋水産業の技術研究機関とか、学術研究機関というふうな位置づけをしていただいて、県から特別な応援を私はしてもらってしかるべきというふうに思っております。武道館も上越へいったりとかしてるわけですし、いろんな競技場とかも新潟市、長岡市が中心になってるわけですから、この水産系、海洋系については、国際機関とか国の機関とかも含めてこの海洋高校と連携して、糸魚川に根づくというような方向で、ぜひ取り組んでいただきたいんですけども、先ほども市長が答弁されたんで、そういう方向で動いてくださるといふふうに思いますので、ぜひともよろしく願いいたします。

あと少し角度を変えてお願いというか、要望になるんですけども、いわゆる海洋高校生の仕事というのは比較的、男の仕事みたいなイメージがあるんですけども、女性の社会進出という部分で、女子生徒の社会進出応援プロジェクトみたいなものを検討していただきたいなど。

世間ではドボジョ、土木建築系の女性の仕事をする人、あとリケジョ、今、ちょっと別の意味で問題にはなっておりますけども、理数系研究員の女性の活躍といったものが、男性社会のものと思われていたところに女性が進出しております。また、趣味の世界であっても、歴女とか山ガール、釣りガールとか、あと鉄道ガール、鉄道の好きな女性の方もおられますね。そういった方がマスコミに取り上げられたりしております。

それで海洋高校については、過去に女子生徒が小型1級船舶士をとって卒業された方もおりますし、そういった流れから魚が好きで、船とかが好きで、海や川が大好きな女子中学生に、可能性というか将来展望を語って、この海洋高校への募集キャンペーンを、まちぐるみでやっていただきたいなど。全国の女子生徒がまた入学しやすいように、きれいで、かわいらしい女子寮なんかも県と協力して設置していただくとか、または今、女性で水産系で頑張っておられる方が、結構たくさんおられるんですけども、そういう方を招致というか講演者として呼んで、この糸魚川の地でそういう講演会をしてもらうとか、こういう女子生徒をちょっとターゲットにした取り組みというのを、ぜひ取り組んでいただきたいんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

産官学連携の事業を進めておる立場でお話を申し上げさせていただきたいと思っておりますけども、やはり現在の海洋高校の活躍は非常に全国にPRされておまして、この4月に入学された食品科学科の生徒の中には、例えば東京の杉並から来たりとか、三重県の桑名から活動を聞いて来たというふうな生徒もおります。男子生徒でありますけども。多分、女子生徒も、そういう魅力を感じ

じて来たいという中学生の生徒も、市内にも、また全国にもおるだろうと思っております。

今、ご提案のように女子寮の問題も若干お話も聞いております。また、今後そのようなお話を聞く中で、糸魚川市として、県にまたどのようにご要望すればいいのか、また市として、どの部分をご支援すればいいのかというところを検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ぜひよろしく願いいたします。

この4番目の卒業生が糸魚川市に定住したくなる環境整備についてであります。今までも、これまでも市内の企業と幾つかの商品開発が行われております。今後、市外の企業であったりとか、また、海洋高校の卒業生が就職した先の企業とか、そういったところともパイプを深めていただいて、海洋高校を通じた商品開発とか、そういったものができる仕組みづくりというのをさせていただきたいと思うんですが、その辺、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

昨年12月に、三重県の相可高校の高校生レストランを視察をさせていただきまして、いろいろな取り組み、レストランばかりでなくて相可高校の生徒が、いろいろな商品開発にかかわってきたという事例も勉強してまいりました。そのような中で、今、能水会と高校とも含めてお話をしておりますのは、あくまでもテストマーケティングのところを取り組んでいこうということで、今進めようしておりますので、その先にあるものは議員のご意見もあります、また、市長のお考えも先ほどお話いただきましたけども、その方向で進めていきたいというふうに考えておりますので、その中で目標を高く、支援してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

今の答弁をいただくと、これから言うことは全部提案で、なかなかいい回答がもらえないかもしれませんが、一応聞いていただきたいと思います。

最近、近畿大学の養殖マグロで、近大マグロというのが沖縄県でつくられておまして、非常においしくて銀座で受けていると。あと未利用魚をおいしくする。静岡県の伊東漁港に、30代だったかと思うんですけども、魚屋さんがおるんですね。ホシエイとかという、毒とかとげとかあって、においが臭くて食べれないというものを、独特の調理方法で食べれるようにして、それを普通の料亭に卸しているという魚屋さんがおります。

あともう1つ有名なのが、山口県の萩市大島で、これは60人の漁師さんを束ねている27歳の女性社長というのがおまして、要は、魚をとった時点ですぐ血抜きをして、発泡スチロールのパ

ックに入れて氷詰めして、すぐ発送して、市場を通さないで、もう自分で開拓したお店に直接卸すというやり方で利益を上げて脚光を浴びているという話が出ておまして、水産業界の可能性も、まだまだ広がりを見せるんじゃないかというふうに私は勝手に期待をしておるんですけども、そういった意味で、今言ったようなこういうビジネス情報とか、新しい取り組みだとかというものを、在校生、卒業生、また地域の漁師さん、または水産加工をやってる方とかが一堂に会する定例会みたいなものを、ぜひやっていただきたいと思うんですが、その辺、市が音頭を取ってやっていただくと非常にいいのかなと思うんですが、その辺、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

いろいろなご提言、どうもありがとうございます。

先ほども言いましたように、どうやってテストマーケティングの加工場のつくろうかというところで今進めておりますので、先ほどの答弁でも申し上げましたように、目標は高いところに持っておりますので、その中で今のご提言を検討させてもらいたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

今、課長からそういう答弁ですので、今後はやっぱり糸魚川に定住してもらおうという、そのシステム。先ほども1回目の質問で挙げたように定住支援、または独立起業したい方に、やっぱり卒業生には優遇措置とか、あと先ほど吉川議員ですか、空き家利用とかもありましたけども、地元で漁師をやっていただく方には空き家とかを提供して、定住してもらおうとか、いろんな角度で取り組みを、ぜひ進めていただきたいと思います。これは要望にさせていただきます。

続きまして、子育て支援になります。

子育て支援と言いながらも、私のもくろみとしては定住人口の安定、拡大というところにございまして、その上での保育事業のあり方だというふうに捉えております。

共稼ぎで生活している若い世帯にとっては、特に保育に関しては、関心が高いものでありますし、働き方や就労の形が多様化しており、地域における女性の労働力というのは大きなウエートを持っております。

一昔の価値観を押しつけても、子育ての理想論を唱えてみても、現実を生きている保護者にとって、こういった病後児保育、学童保育、24時間保育、遊び場の確保というのは大変重要になるので、もっと力強く推進をしていただければと思います。

先ほど病後児保育は年内にと言ったんですが、予算化されておるわけですし、なるべく早い段階で実施していただきたいんですが、もう少し具体的な内容を、お知らせいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

先ほど教育長の答弁にございましたとおり医師会、あるいは糸魚川総合病院と、医師会とは、いわゆる病気か病後児かというのは、お医者さんにとっては非常に微妙な問題がございます。その辺の統一的な医師会としての判断を決めていただいて、医師の同意書といたしますか、そういうのも必要でございます。それから糸魚川総合病院につきましては、看護師を派遣していただくことになっておりますので、その辺の協議。それから今、設計中なんです、これは用途変更の確認申請が必要なものですから、その確認がおりてから、また工事ということになります。年内と言いましたが、なるべく早いうちに開設できるように進めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

なるべく早くお願いしたいと思ひますし、また状況が見えてきたら担当の委員会にも、すぐ報告していただきたいと思ひます。

次に、学童保育のこの時間延長であります、これは私もじかにいろんな保護者から要望をいただいておりますけども、これは何とかちょっと時間延長、取り組んでいただきたいんですけども、どうしても仕事をして帰ってくる時の時間帯が、今の時間ですとどうも間に合わなかったり、家族でいろんな調整をしなきゃいけないという事情があるみたいなので、この辺、もう少し頑張っていたきたいのですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

毎年、利用者の方のアンケート調査を実施しております。やはりその中でも時間延長というのが、希望が多うございます。これにつきましてはスタッフの問題等ございますが、それについては、前向きに検討させていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

病児・病後児保育の件からいくと、24時間もなかなか難しいのかなという気はしておるんですけども、わんぱくホリデーについてですけども、今、中央保育園でやっておるんですけども、なかなかやっぱり周知が行き渡ってないのか、この話をすると皆さん、えっ、知らなかったという方が結構多いものですから。ホームページ、広報に載せていただいているのも重々知っとるんですが、もう少し周知の仕方を検討していただきたいなと。

お話をしていくとお孫さんを見るおじいちゃん、おばあちゃんの方が、遊び場についてよく声をかけていただくんですけども、この話をすると、へえっという感じなんですけど、できればもう少し能生、青海とかもちょっとエリアを拡大してみて、おじいちゃん、おばあちゃんにもわかるような周知の仕方というのも工夫していただきたいんですが、その辺、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

この事業につきましては、平成22年度から実施しておりまして、25年度で4年たったわけですが、毎年、利用者はふえております。今後も周知の仕方等を含めまして、また利用していただくような形で検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

なかなか広報等となると難しいかもしれませんが、よく医療機関へ行くと、子ども医療費助成のピンク色のコピーをしたものがいっぱい張ってあるんですけども、ああいう形で皆さんが見る公民館とか高齢者の集まるところにも張っていただくだけでも、私はかなり効果があるのではないかと思いますので、そういった努力をよろしくお願いいたします。

続きまして、子供の遊び場環境であります、公園整備であります。

国道、県道、市道の改良に積極的に取り組んでいただいていることを、私は高く評価しております。道路によって糸魚川市の様子も大分変わってきました。また、少子高齢化に伴い保育園や小中学校の規模が縮小しております。集落によっては、高齢者のみというところもふえております。

そこで子供や高齢者の憩いの場として公園について、今後、市民にとって使い勝手のいい公園でなくちゃならないというふうに私は考えております。大体、住宅をつくってから公園整備というのが、されてるような気がしているものですから、今、いろんな道路が拡幅、充実してきた中で、防災面も考えた公園の立地、設置というものを検討していくべきだと思うんですが、その辺の考えはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

○建設課長（申橋秀樹君）

今のところ少子高齢化ということでありまして、利用形態について何かぐあい悪いという要望は出ておりませんが、例えば土地区画整理事業とか開発行為ということで、住宅団地が開発されたということになりますと、そういう基準に基づきまして公園を設置することになっておりますけれども、現段階では道路とか、社会情勢の状況によって変化してきておるわけですけども、公園の配

置の見直しというのは、特に要望も出ておりませんのでしませんけども、そういう必要性が出てきた場合には、検討させてもらいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

私もきっちりしたアンケートをとったわけではありません。ただ、美山公園の利用者ってかなり多いんですけども、やはりさっき言ったお孫さんを連れて移動する場合に、やはりおじいちゃん、おばあちゃんにしてみると身近なところの公園が必要と。多分、そういうところからの声だとは思いうんですね。だから美山公園は確かに充実していっておるんですが、もう少し住宅に近いところの公園整備ということで、またぜひ検討していただきたいと思います。

次、公園管理のほうであります。

公園の使い方というのは、地域にとってそれぞれなんだとは思っておりますが、公園を子供が独占するとか、高齢者が独占するとかというふうにならないように、配慮していくべきだというふうには私は思っております、みんなが自由に仲よく利用できるように、その公園の中にかわいらしくルールというか、お互いに使いましょうと。あるところでは、例えば高齢者がグラウンドゴルフですかね、ゲートボールをいつも常々やっていて、小さい子供を連れていっても遊べない、入っていけないというような状況もあったというふう聞いておりますので、お互いさまではありますが、もうちょっとお互いに使いやすい環境として、看板なり何かでルールを示していくべきと思うんですが、その辺、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

○建設課長（申橋秀樹君）

公園の使い勝手の看板については、あるところもあります。例えば老人がゲートボールして広い範囲を使って、子供たちが遊べないということもありますけども、それは遊具のゾーンとゲートボールのゾーンと一応分離してありますので、あまりそういうところはないと思っております。

それとあと、遊具も年代に応じた遊具があるわけですけども、幼児が使う遊具に中学生が乗ったりとかということで、事故が起きる場合もありますので、そういう注意看板等も設置してある公園もあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

では子供用と高齢者はしっかり分離されているというふうにおっしゃられたので、そのようにじゃあ認識いたします。そういう声が、今後、出ないといいなと思っております。

公園管理について、今ほど課長の遊具という言葉があったんですが、例えばブランコとかが設置してあって、腐食したり傷んだりして使えない状態のまま、そのままになっているケースとか、あ

と遊具を取り払った後、新しい遊具を取りつけてないとかという、そういうケースとかってあるんでしょうか。ちょっと市民の方から、そういう声を伺ってるんですが、その辺、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

○建設課長（申橋秀樹君）

遊具の点検ということでありますけども、平成21年度ぐらいまでは、そんなに力を入れておりませんでした。平成21年ぐらいまでは、2年ぐらいかけて全公園の全遊具の点検をしておりましてけども、平成22年ごろから死亡事故につながるような遊具の事故というのが、全国で相次ぐようになりまして、国土交通省からしっかり点検をなさいという通達が出たわけでありまして、

それで平成23年度から、平成20年8月に国土交通省が制定しました、都市公園における遊具の安全確保に関する指針というのに基づきまして、専門業者に委託しまして、平成23年度には56公園で188基の遊具、平成24年度には65公園で196基の遊具、平成25年度は65公園で208基の遊具を点検しております。

それとあと、遊具の更新ということでありますけども、危険な遊具はすぐに撤去いたしまして、すぐに撤去できないものはシートとかで囲って、使用禁止ということになっておりますけども、平成23年度から点検をきつくやってきたわけですので、古いやつは撤去、撤去した分は新設ということでありまして、平成23年度には10基の遊具を撤去して、11基の遊具を更新したということでありまして、平成24年度は24基の遊具を撤去し、19基の遊具を新設しております。そして25年度も24基の遊具を撤去して、22基の遊具を更新しております。今年度も9基撤去して、11基更新したいという予定であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

では遊具を取り払って、更新してつけてないということは、ないという認識でよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

○建設課長（申橋秀樹君）

10基撤去して9基更新したとか、10基撤去して11基更新したとかいうことで、ちょっとずれておりますけども、数的には撤去した分、更新しているということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

では了解しました。多分、その間というか、そのあれで取り違えたのかもしれませんが、ただ、今後は取り払ったところには、しっかり新規で設置をしていただきたいと思います。

次に、3番の経済力による学力差を生まない取り組みについてであります。

これについては1つ1つの家庭状況を取り上げていると、もうどうしようもないことになってしまふんで、特に経済的に厳しい家庭の子供で、より高度な学習をしたい子供、もう少し何て言うんですかね、学習についていくために補習というか、サポートをしてもらいたい子に対して、また公の支援があってもいいと思っておるので、先ほど何か夏休みの期間で、そういうのを取り組むというんですが、もう少しもし具体的な内容が決まっておれば、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

燕市、それから三条市の取り組みにつきましては、これは毎週土曜日を活用した事業というふうになっております。私ども糸魚川市としては、この土曜日をどういうふうに考えるかということなんですが、この土曜日は学校週5日制が始まってから、ずっと学校という枠、あるいは学年の枠を取り外して、子供たちが地域や家庭の中でさまざまな体験をすることを通して、いろんな世代の人との関係を築いたり、自然や崇高なものと触れ合ったりする豊かな心を育んでいこうということを期待しております。そのために、これまで文化、芸術、あるいは自然体験活動、スポーツ関係で、いろいろな地域の団体の皆さんが子供を育ててくださっております。

したがいまして、私どもは改めてこの土曜日に子供を集めるというようなことは、今のところ考えておりません。ただ、学力保障といいますか、そういうことで中学生はこれまで4中学校ともに、夏季休業中に学習補習の機会を設けています。ところが学校の先生方も夏季休業中は、いろんな研修等がありますので、人的に教育委員会で何とかしてほしいという要望も出されてきました。

そこで、例えばALTさんは学習が8月はないわけですので、そのALTさんを活用して子供たちの希望者ではありますが、英語の勉強をさらに続けたいというような子供がいれば、そのALTを活用することはできないだろうかということで、今、中学校の校長先生方と、そのところを詰めている段階であります。何とか、ことしの夏には実現したいなあというふうに、今、考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

取り組んでくださるということで、それ自体は感謝します。

今、ちょうど英語教育のことを言われたんで、ちょっとつらつらと書いてきたことを言いますが、公の学習支援を行うということになると、普通、民業圧迫とかそういうふうに言われる、心配する声もあるんでしょけれども、むしろ少子化社会でありまして、既存の教育関係業者にも協力をいただきながら連携して、子供たちに学校以外の学習の機会、また、サービスの内容で競合しないところを行政のほうでサポートするとかという研究は、私はしていくべきというふうに思っ

おります。

その上で、今、英語教育の話をされたんですが、2014年度の新潟県の公立高校の入試では、英語の平均点が前年より11.4点低く、いわゆる聞き取り問題の正答率が特に低かったとありました。これは多分、新潟県全般の内容なので、即、糸魚川に該当するとは思えないんですけども、ただ、あまりにも11.4点というすごい数字が出ておまして、この辺の背景とか何かご存じであればお伺いしたいし、場合によっては、今、燕市のJack & Betty教室のように、希望する子供には英会話とか、英作文の力を特化して身につけさせる機会を提供しておりますし、あと、現場の小学校の先生にしてみれば、今後、英語教育のスキルアップの支援というのも本人任せではなくて、やっぱり市、県が本気になって取り組んであげないと、なかなかこの英語教育というのは進まないなというふうに思っておりますので、その辺を含めて、ちょっと幅が広がりましたが、ご回答いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

2014年の入学の点数が下がったということは知っておりますが、本当の分析というのは、私どもではちょっと把握しておりませんので、お答えできないかと思っております。

今後の英語教育、小学校でのことも踏まえて、これまでのNRTの調査等から、聞き取り等の低さをご指摘のとおりだと思います。それにつきましてはALTの活用を、幼稚園から今始めておまして、糸魚川市ではかなり恵まれた環境にあります。その環境を生かして、さらに伸ばしていきたいなというふうに考えております。

ただ、民間との連携ですね、そこまでは今考えておりませんでしたので、今後、また調査研究してまいりたいと思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

民間との連携については何が何でもというわけではなくて、先ほど教職員の方がほかの研修でいないとか、人的要請があった場合には、民間業者にも声をかけて連携していければいいなということ言ったわけで、教育委員会のほうとか学校のほうで対処できるのであれば、それはそれで結構であります。

今、英語教育については、糸魚川市は恵まれてるというような言葉がございました。世界ジオパークの糸魚川市として、また、0歳から18歳までの一貫教育に取り組んでいる、日本一の子どもづくりの糸魚川としては、やはり英語で挨拶、英語でおもてなしというようなところも含めて、さっき言ったふるさと教育、キャリア教育とつなげていくのに非常に大事だと思うので、ぜひぜひ子供はもちろん教職員のスキルアップにも、全力で取り組んでいただきたいというふうに要望させて

いただきます。よろしく願いいたします。

すみません。福祉のほうをちょっと後回しにして、安心・安全な生活環境のほうをちょっと聞かせていただきます。

本会議初日、市職員の不祥事について、市長より報告とおわびがありました。まことに残念なことであり、議会で私自身、安心メールの導入とか、防犯対策とか、今回の防犯カメラの設置も含めてですけども、こういう取り組みを訴えてきた人間としては、この市職員としての、このあるまじき行為に本当に怒り心頭であります。糸魚川市としてこの被害女性に対して、どういっておわびをしたのか私はわかりませんが、そういうことが市民にもあったらと思うと、とてもいたたまれない気持ちであります。

市職員の指導はもちろんです、糸魚川市は市民の信頼回復のためにも、この不審者対策については全力で取り組んでいただきたいと思います。その1つの手法として、私はこの防犯カメラの設置が大事であると思っているんですが、いま一度この防犯カメラについて、再考していただきたいと思いますんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

防犯カメラにつきましては、やはり犯罪被害の未然防止だとか、それから予防等に有効性が認められておる一方、やはり画像の取り扱いによってはプライバシーの侵害というおそれもございます。

そんな意味から、場所や状況によりまして、例えば防犯灯のほうがいいのか、それから防犯カメラがいいのかというようなこともございます。これにつきましては、ほかの自治体等でも取り組んでいるところもございまして、それから各団体や何かにも補助もしてるところもございまして、それらのところも、今後、ちょっと調査研究するような形をとっていきたいなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

私はプライバシー云々という話はあるんですけども、やはり犯罪が起こってしまったからではよくないですし、また、犯罪が起こった後のやはり捜査の関係上、防犯カメラの力というのは大きいというふうに思っております。

そこで私も何とか、この防犯カメラを安くつけられないかということで、必死にいろいろ探したんですけども、防犯カメラを無料で設置してくれるという何か取り組みがあるということでもあります。以前、中村議員が議会で紹介してくださった、AED付きの自動販売機というのがございます。自動販売機を設置すると、そこにAEDが販売機の中に内蔵されているわけですね。それと同じように自動販売機を設置していただくとその防犯カメラを、ウェブ方式というんですけども、多分、インターネットを通じてのパソコンの画像を撮るんですけども、そういった自動販売機を設置

とともに防犯カメラを設置をするという、そういう取り組みがあるんですが、ぜひそういったものを取り組んでいただいて、電気料の負担はこちらでしなきゃいけないですし、その中身についての売り上げというのは設置した側に行くんですけども、要は、場所を提供して防犯カメラを設置する。こういった取り組みを、ぜひやっていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

今ほどの提案も含めて、今後、調査研究をさせてもらいたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

不審者情報等、ほんと最近はちょっと減ったかもしれませんが、やはり不審者情報以外にもいろんな場面で、逃走車両だとかいろんなことが、そのカメラに映るわけですね。あまり緩い考えではなくて、真剣に設置の方向で考えていただきたいことを要望しておきます。

次、交通安全の交差点であります。幅の広いほうを優先するというようなお話がございましたが、何とか、点滅信号機が一番理想なんでしょうけども、工事現場で使っているような赤く発光するようなものとか、あと今LEDで、いろんな色を出すものとかありますし、そういったものを交差点、T字路に配置するとか、できれば今度は道路自体に危険を促すカラーの塗装を入れるとか、そういった取り組みをぜひやっていただきたいんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

○建設課長（申橋秀樹君）

今のところ各地区から、そういう要望が出ておりませんが、特に危ないなというところは、私らのほうでも数カ所想定してるわけですので、また地元の皆さんと区の区長さんなりと協議を進めたり、警察署と協議をした中で、設置については検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

要望があれば、やってくださるというふうに捉えてよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

○建設課長（申橋秀樹君）

要望があるということは、日ごろ皆さんが困っていることだから要望があるわけでありまして、

そういうのは対応していきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ありがとうございます。

要望があったら、ぜひ取り組んでください。お願いいたします。

あと段差のないとか、側溝のふたの件であります。これはあえて言ってるんで、非常に担当課としてはやっていただいているのは重々わかるとるんですわ。むしろ高齢化社会に向けて定住人口を拡大していく上で、糸魚川市がそういったところに気を使っていて、設置率が100%だということに住みやすいまちだということも、私、宣伝していただきたいという思いで、側溝のふたとか段差のないまちとかというのをアピールしていただきたいんですが、その辺、設置率はどんな感じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

○建設課長（申橋秀樹君）

老朽化して段差がついた側溝だとか、ふたのかかってない側溝というのは、毎年行っています道路改良の中で毎年10本ずつぐらいやっておりますので、かなり整備が進んできております。

ただ、担当課といたしまして、ちょっとまずいなというところがありまして、それは上刈白馬通線から148号の間の南本町線なんですけども、両側に1.5メートルの歩道がありまして、車道が8メートルで、全幅11メートルの道路でありますけども、各車庫への乗り入れとかということにフラット型でないわけですので、まち内の中で、あそこが一番大変な場所なのかなと今思っておりますけども、これも近いうちに検討させていただいて、改修すればまち中では、ほとんど大丈夫かなというふうに今考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

無謀なことを言いますが、また道路側に土を盛るという作戦もあるかと思っておりますので、ぜひ頑張っててください。

終わります。

○議長（樋口英一君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

○19番（五十嵐健一郎君）

奴奈川クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

その前に、伊井澤前副議長のご逝去の報に接し、謹んでお悔やみ申し上げます。

伊井澤一郎前副議長は市議会議員として、そして副議長として、市政発展にご尽力を賜り、その優しさと、いざというときの一言が、特に印象に残ります。生前のご活躍をしのび、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

さて、糸魚川市ではジオパークを筆頭に、首都圏や関西圏を中心に体験教育旅行誘致促進事業など成果を上げています。さらに今後、ジオパークなどに取り組むためにも、先進地である岐阜県高山市では、平成8年からモニターツアーを実施し、障害のある方や外国人観光客など直接声を聞き、外国人観光客等の受け入れマニュアルを作成し、もてなしの匠・心得帳を作成して、市内の宿泊、飲食関係事業者等に配布し研修を実施したり、外国語パンフレット、マップ、魅力を紹介したDVDなどを作製し、外国の14都市に配布、民間や県と一緒にトップセールスをし、外国エージェントやメディアの視察受け入れ事業を週1回だそうであります。

糸魚川市でも外国人客の誘致拡大などにも積極的に取り組む絶好のチャンスが来ております。

そこで以下、具体的にお伺いします。

1、持続可能なまちづくりについて伺います。

(1) 糸魚川市における新たな国立公園の活用と管理運営体制及び将来ビジョンの策定について。

(2) 糸魚川ジオパーク戦略プランによる成果と今後の取り組みについて。

① ジオパーク来訪者の誘致拡大。

ア 学術的交流の推進。

イ 海外からの外国人客への対応。

② ジオパーク来訪者の受け入れの充実について。

ア ジオサイトをめぐるツアーの充実。

(3) 移住・定住対策について。

① 住宅関連施策と雇用関連施策の充実について。

② 市有財産の有効活用。

③ 新幹線通勤定期券購入費補助金。

④ ICTの活用策について。

(4) 糸魚川応援隊での「熱狂的なファン」をつくる対策について。

(5) 海外への農産物等の輸出戦略について。

(6) 雪室の実験結果と今後の取り組みについて。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、来訪者が増加するよう、ジオパークの活動の中で宣伝を強化してまいります。ビジョン及び管理運営体制につきましては、今後、環境省が設置する総合型協議会において策定される予定となっております。

2点目の1つ目のアにつきましては、修学旅行等の受け入れが拡大してきており、今年度はジオパーク学術研究奨励事業を設置いたしてございまして、新潟大学など6件について採択をし、支援してまいります。

イにつきましては、観光案内看板やホームページ開設などいたしまして対応してまいりましたが、今年度は英語による会話帳を作成し、受け入れ体制の整備を進めてまいります。

2つ目につきましては、はとバスやクラブツーリズム等のツアーや、体験教育旅行の誘致を進めております。

3点目の1つ目につきましては、現在、ネスパスでの求人イベントの実施や、Uターン情報センターから就職のあっせんをいただいております。また、雇用促進住宅に入居される場合には、家賃の軽減を行っております。

2つ目につきましては、地域プロジェクトモデル事業の中で、具体的な活用方法等について検討をしてまいりたいと考えております。

3つ目につきましては、新幹線により通勤通学圏が広がるため、転出を抑制する方策の1つであるとは考えております。

4つ目につきましては、市ホームページ上で移住に関する情報を提供しており、ICTを活用いただける全市ブロードバンド環境も含め、PRしてまいりたいと考えております。

4点目につきましては、市民一人一人が応援隊を獲得できるよう働きかけ、隊員へは魅力ある糸魚川の情報を発信し、口コミでPRをしてもらいたいと考えております。

5点目につきましては、当市の米をはじめとする農産物や加工品については、数量の問題もありますが、今後も調査してまいりたいと考えております。

6点目につきましては、県の支援を受け上早川地域農業ビジョン検討委員会が30品目を貯蔵し、雪室の効果が確認されております。今後も継続して実施してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

まず、第1点の国立公園の活用でございますが、名称については初日、雨飾も含めて、議会では全会一致ということでありましたが、長野のほうではまた動きがあったと。

名称は置いといて、この前、建設産業常任委員会で林道放山線、こっち上早川側から行かせても

らった中に焼山ジオサイト、上南のほうの権現岳ジオサイトも含めて、これも国立公園内ということで、焼山ジオサイトは妙高からやると、火打も焼山ジオサイトに入っていないんですね。それも含めてやっぱり活用とか管理運営体制、ライチョウもありますし、今ほどの市長の答弁だと環境省で総合的に協議会で話し合うということなんですが、ジオパークから離れるんで、その辺も含めてやっぱり市としてどういうビジョンがあるのかをまとめて、この協議会に話していただくべきものだと思うんですが、その辺、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

環境省のほうでは、今回の国立公園の分離に伴いまして、共同型の管理運営体制をしいていきたいということがございます。それについては最終的には、新国立公園の連絡会議等を設置して、ビジョンの策定だとか管理運営方法を検討していきたいということがございますが、今年度、26年度につきましては、共同型の管理運営体制の検討会を環境省、それから関係の県、市町村でそういう会議を設置して、広域連携のあり方の検討だとか、それから公園全体、それから各地区の課題や活動等の情報共有と集約を行って、27年度にいて管理運営体制の枠組みだとか役割等を検討した中で、新たな総合型の連絡会議を設置して、28年度に新国立公園のビジョンを策定したいというふうに、環境省のほうでは、今、そういう計画でありますので、その計画に載るように、今後、協議していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

即、共同で連絡会議を開くのかなと思ったんですが、新たな総合ビジョンになると28年度ということで、ちょっとがっかりするんですが、本当に林道放山線のときに、放山線を生かした活用計画も含めてやってるといこともございますし、その辺のものとして。また、今度は焼山に登るときの砂防公園が、まだ工事とかいろいろの形で火山砂防をやっとる。そこを今、閉鎖されてるといことで、工事期間は土日だけですか、鍵を借りて入れるということなんですが、その辺の工事の終了まで開けないということなんですが、その辺の工事の終了期間、どのぐらいまでかかるのか、教えてもらいたいと思いますし、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

砂防の事業というのは、かなり長期に及ぶんじゃないかなと。今ある計画が終わったから、即、解除できるかという、焼山の性格上、砂防というのは続くんでないかなと思っております。

そういう中で、焼山の対応をどうすればいいのかということ、非常に私たちは今、ジオパークを進めておるわけですが、今、日本には33の日本ジオパークがあるんですが、その中で21が国立公園と連携をしております。その中で国立公園が2つあるのは、糸魚川市だけではありません。そういう状況があるわけですが、ことしの4月から環境省の国立公園課の中に、ジオパーク推進係をつくっていただきました。そういう中で、どのように対応していくかということ論議をさせていただきながら、今の砂防を受け持っていて林野の皆様方と、また協議をしていくというふうな形をとっていかないと、今までどおりだったら1市と砂防だけで対応しなくちゃいけない部分であって、なかなかそういったものが解決できなかったんですが、そういういろんな活用の仕方の中でどうあるべきかということも、やはり論じていけるのではないかなと思っておるわけがありますので、そういった新たにできた組織の皆様方とともに、管理と活用の部分を捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ環境省にジオパーク推進係ですか、その面を含めて対応を図って協議して、先ほど保坂議員でないんですが山ガール、山を愛する登山家もかなりふえてるところで、そこを笹倉温泉から作業道で閉まるところまで自動車が入れば、かなりそこにおいて行けるとなれば、時間も短縮できますし、そういう方々も糸魚川から登れるような環境もぜひつくっていただきたいと、こう思っておりますし、火打から焼山に登る登山道もないということで、その焼山を上がる登山道と、火打から上がる登山道も含めて整備できるような、環境省にはお金はあんまりないそうなので、ぜひ活用と、管理運営体制まで待っていれば、登山道ができるのはいつになるかわかりませんが。

この前ですか、ユネスコの生物圏保存地域ということで南アルプスが登録されたということで、福島県の只見もあるんですが、これは今、新しく国立公園をやっておるんで、ユネスコのエコパークも含めて文部科学省管内ですか、だからその辺も含めてぜひ取り組んでいただければ、早くそういう整備もできるかなと思うんで、その辺の考えはないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

エコパークに関しましては、今、ほかのところでも取り組んでおるんですが、なかなか先行きが見えない部分でもあります。やはり一番後からできたジオパークのほうが、私はいいのだろうと。あれもこれもといっても、やはりエコパークのほうが逆に規制がかなりあるわけでありまして、ジオパークはそこに住んでおる人たち、また、その基礎自治体が、どれぐらい本気度が求められるか、そのほうがやはりこのまちづくりであったり、地域活性化には効果があるものと捉えております。

今、どちらにいたしましても文部科学省のユネスコ国内委員会の中で扱っておる事業でございますので、同じ枠の中で進めるわけございまして、いろんな考え方。やはり名前が違うということ

は、当然、多少の中身も違って来るわけでありまして、その辺を我々といたしましても、いいほうをとっていきたいと思うわけでありまして、今の段階では、やはり地域振興やまちづくりは、住民の皆様方と一体とやるのが基本であるわけですので、ジオパークのほうは、そちらが強い部分でございますので、そちらでやっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございます。

しかし、焼山ジオサイトも、権現岳ジオサイトも、雨飾ジオサイトも、その空白のところがあるんですよね。その辺も含めて国立公園になっているんですが、妙高では、もう国立公園妙高魅力アップ事業、自然資源の保護活用策を目的とする妙高ビジョンも策定すると、今年度の予算に載ってるんですよね、妙高は。新しい国立公園妙高PR用のDVDも、はや作製してるということで、かなり進んでいるんですが、糸魚川も一緒になって乗りおくれんように、妙高に乗っていけばいいんじゃないでしょうか。せっかく同じところをつくるのでDVDとかも含めて、どうせ無人機を使ってやると思うんですが、その辺も含めて糸魚川市が乗って、一緒につくっていただけるような方策も必要ではないでしょうか。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そのようなお考えもあろうかと思うわけでありまして、もうそこまでできておるんだったら恐らくもう妙高市は、ある程度、固まっておるんだろうと思うわけでありまして、そこに加わるということは、少し難しいかなとは思っておりますが、我々もそれに負けないようにジオサイトをしっかりと。我々は国立公園だけがジオサイトではございませんので、エリアは自由に拡大もできるわけでありまして、そういった我々の自然資源や、それに関係する歴史や文化なども含めながら、魅力のあるジオサイトをつくって情報発信をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいんですが、火打が国の特別天然記念物のライチョウですか、これも北限生息域で、やっぱり火打も含めて妙高の人は、そのDVDを作製したりしとるんで、それも関連、糸魚川の火打の区域に入るとるんで、いいところはやっぱり発信できるような形でジオパークだけでなく、絡めて連携していただきたいと思いますなど、こう思っておりますので、よろしくお願いたします。

次に、今言ってきましたジオパーク関係でございますが、かなりのジオパーク戦略プロジェクトの中で、建設産業常任委員会でも所管事項調査でもやるんですが、かなりの方々。初日にも市長から

ありましたように、かなりの大学で団体が来ていただいているということで、その辺でちょっと詳しく、新潟大学とかいろいろあったんですが、その辺、ちょっと詳細に教えていただきたいんですが、昨年の25年度と26年度、どんな成果なのか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

学术交流の成果ということで説明いたしますけれども、現在、上越教育大学と連携協力に関する協定書を締結しておりまして、4月には、当課と企画財政課、こども教育課の担当者と上越教育大のほうに赴いて、今後の取り組みについて協議をしております。とりあえず取り組める事項ということで、上越教育大のほうから出前講座みたいなのをさせていただくような形で進んでおります。

それと、ことしからジオパーク推進協議会のほうで学術研究奨励事業を始めております。この事業については、当市をフィールドとして地質とか地域づくりとか、そういったものを研究していただいて、いわゆる研究資料を集めるということと、若手研究者の育成をしたいということで始めております。

この間、申請を締め切ったわけですが、新潟大学から学生や准教授を含めて4件、上越教育大と首都大学東京から1件ずつということで、研究の内容としては、青海地域に産する高圧変成岩ブロックの研究とか地質学的古生物学の研究、それから姫川流域における岩石研究、中にはジオストーリーの日本型モデル構築に向けた地理学的研究ということで、非常に今まで当市がまだ取り組んでないような研究にも参加していただいております。

そのほか昨年の成果として、やはり修学旅行がふえてきておるということで、昨年、学芸員が対応した件数は39件ということで、前年よりも増加した形となっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

本当に小学生から大学生、研究者まで、かなりの旅行者を含めて、平日ですのでウイークデーも含めて、やっぱりいろんな形で経済的にも潤ってきていただいているということでいいんですが、その中で私、言いたかったのは、冒頭、第1回目に言いました外国人向けの旅行者の来訪促進で、香港ジオパーク関係ですか、私はそれをもっと広げていっていただきたい、今、チャンスだと思うんですわ。全国から来ていただいているのを含めて、やっぱり富山空港経由で白馬なり長野県もやってる、山梨もやってるいろんな形を、糸魚川に来ていただけるような今がチャンスだと思うんですが、そういう形ができないかなと。今取り組まないと次につながっていかないので、地道にやってきたこのジオパーク推進が今に結びついてきておるんで。北陸新幹線、来年開通するんで、その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり今、日本の中でもふえつつあるんですが、ご承知のとおりアジアの中でも広がりつつあります。今までは中国とマレーシアが1つと日本だけだったんですが、ご承知のとおり韓国、そしてインドネシアのバリ島でしょうか、そしてベトナムというふうになってきております。

そういう中で、まだ世界ジオパークになってない台湾なんですけど、非常に興味を示していただいておりますし、特に糸魚川との交流、玉山を通じた交流もあったわけでありまして、今までとちょっと違った玉山の反対側から、台東市というところがございますが、そこもジオパークのあるところがございます。その市からも、糸魚川と少し連携をとりたいという声がかかってくるわけがございます。その辺を今、商工会議所の皆様方が少し事前に調査をいただいて、非常にまたその結果はいいという評価をいただいとるんですが、その辺も調べてみる中で、おつき合いできるようなしていきたいと思っております。一番いいのは、やはり温かいところと、我々のところの自然環境が大きく違うわけがございますので、特に糸魚川の雪とか食べ物とかというのが提供できて、喜んでいただける部分があるんじゃないかなとは思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ台湾だけでなく、県も外国人誘客に照準を当ててるということで、かなりの目標ですか、2016年度には外国人宿泊数13万2,000泊ということで挙げているんで、倍以上を挙げておりますが、糸魚川にも県とタイアップしながら、国ともタイアップしながら、来ていただけるような形をとっていただきたい。

本当に首都圏とか関西圏の新聞は見るんですが、今、妙高とか白馬、長野も含めてオーストリアですか、オーストリア、台湾も含めて、民間ではスイスの方々もかなり来ると聞いているんですが、今は本当にそういう方々をどんどんどんどんふやしていく。糸魚川応援隊でないんですが、泊まっていたらいいような形と交流、結びつきも含めて、ぜひやっていただきたいと思っております。

それで民間で今、先ほどスイスとありましたが、まち歩きもふえとるということも聞いておるんで、クラブツーリズムが白馬に拠点を置くということで、その辺を中心に白馬と高浪の池も含めてやると。そういうのも利用しながらやっていただきたいと思うんですし、来年には北陸デステイネーションキャンペーンですか、北陸も含めて地道なつながりでツーリズムをやるとるんですが、今度、市職員がそのまま、職員だけでなく、職員は今度はまた3年とか4年でローテーションして、またかわる場合もあるんで、専門的な本当に配置というか、観光協会になるんでしょうけど、そういう本当のしっかりした人材を含めてやっていただきたいと思うんですが、その辺の市職員とかの配置とかは、どう考えているのかお伺いしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご承知のとおり、今、観光協会が1つになって動いてまいってるわけでございまして、最終的には、やはり観光協会が力を持って運営していく形が一番いいのではないかな。それともう1つ、ジオパークにつきましても、今、市民の皆様方と行政で協議会をつくっておるんですが、これもやはり今度はNPO法人ぐらいの、やはり独自で活動していく形にしていくことが、一番いいのではないかなと思っておる次第であります。

今、本当に我々の市の受け入れ体制につきましても、まだまだなところが結構あるわけでございまして、そういったところをしっかりとしていかななくてはいけないと思っておりますし、外国の方々におかれましても、国内の方々におかれましても、やはりまだまだ我々のところは受け入れ体制が整ってないと捉えて、そういったところに力を入れながら、徐々に広げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

本当に軽井沢でしたか、上高地でしたか、若者がガイドするプロのガイド、そういう方々も本当に、次の定住のほうにもつながるんでしょうが、そういう方々、専門の若手の、女性も含めて、そういう会社なりNPO法人とか設立していただいたり、語学の堪能な方々も含めて、そういう養成もやっぱり必要だと思いますし、かなり外国の方々も興味を持つてると思うんで、お願いしたいと思えますし。

いといがわ元気印シンポジウムですか、NPOのまちづくりサポーターズの中で、糸魚川の売りは、こじんまりと人と人とのつながり。ジオパーク、地質学に興味がないというわけでないんですが、それだけでは客を呼べないということ言ってるんで、外国人は、ありのままの田舎が売りだそうなんで、きょうの一般質問の中にもありましたが、民泊ですか、農家民泊も2軒立ち上げるといこともありますが、ぜひそういう田舎体験ができるような誘客戦略も含めて、今がそれがちょうどチャンスだと思うんで、ぜひやっていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさにやはりその時であります。今、国内でも海外でも農家民泊が、やはり一番要望でございまして。それを今、提供できるかという、なかなかできない状況であります。今、長く続いております聖学院の皆様方の基本的なところは、農家民泊であります。そして昨年の11月に来た香港の子供たちも、やはり農家民泊を目指して来たわけでありまして。

そういうように非常に日本の農業というのは世界的に見ても、やはり注目をされるところだろ

うと思っております。そういうのを、我々はまだまだ景観が残つとるわけでありますので、それをやはり生かしていきたいと思うわけであります。しかし、なかなかままならない部分も今の現状ではあるわけでありますので、そういったところをどのように提供できるのか、また、どのように地元の農家の皆様方と連携をとっていけるかというのが、大きな鍵だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ農家民泊も、聖学院の方々の受け入れ体制もありますし、そういう方々をふやしていきけるような、吉川議員からありましたように空き家も利用する中で、空き家バンクも今年度、また見直すと、再調査するという事なんで、そういうのも含めてできるどころ、民宿、旅館も含めてできるような形で、ふやしていただけるような形をぜひとっていただきたいと、こう思っておりますし。

外国語の観光ガイドマップ作成とか、いろいろな形がおもてなしの中でできると思うんで、障害者の誘客も含めて、先ほどの高山市でないんですが、それと一緒にやっていただきたいと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

まち歩きマップについては、今年度、糸魚川市の観光協会のインバウンド協議会のほうで作成する予定としております。それから過去には、こういった接遇マニュアルということで宿泊施設の注意事項ということで、そういったのもつくっておりますし、外国人受け入れの講習会を開いたり、それから市の方としても今年度、英語による指さし会話帳というのをつくる予定にしています。いわゆる質問と答えが英語と日本語で書いてあって、それを指さしをしながら、会話するようなものがあります。

いずれにしても、やはり外国人を受け入れる際の課題、言葉、食、文化、風習、そういった大きな課題があります。それから、やはり施設整備的にはWi-Fi環境というのは、もう絶対のものと言われてますし、トイレ等、そういうものも徐々に整備する中で、やはり今まであまりインバウンド観光には力を入れてきておりませんでしたけれども、もうそろそろインバウンド観光のほうも力を入れる時期にきているというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

そろそろと言わんで、即、やっていただきたいと、こう思っております。

それで先ほどもちょっと関連して移住、定住のほうで、3月にも第1次産業、移住、定住を目指してやっていくということで、今年度の予算にも載ってるんですが、移住促進のための情報発信と

か、移住者受け入れ体制づくりの支援。これも500万円ぐらいで、今ほど地域プロジェクトモデル事業でやっていくと。この辺のちょっと中身、全部言わんでいいんですが、まとめて言っていたきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

ご質問の今、地域プロジェクトモデル事業の関係であります。

県のほう、地域振興局のほうとのタイアップ事業で、県の支援もいただきながら取り組む事業であります。これまで民間といいましょうか、地元であったり団体であったりが事業主体になりましたけども、今年度は糸魚川市が事業主体になるというもので、今、議員がおっしゃられたとおり、柱は2本であります。移住者の受け入れ体制づくりと、糸魚川暮らし紹介というのが2本の柱で、事業費は300万円で取り組みを予定しているところであります。

この主要なところを申し上げますと、メインはやはり糸魚川の暮らし紹介ということで、糸魚川へおいでいただくというPR部分、もちろん今、交流観光課で取り組んできましたDVD等、そういった媒体ももちろんでありますけども、もっと移住のことを知ってもらえる、広くPRできる電子媒体とチラシ、これは必需品であるというふうに思っております、今年度、首都圏、あるいは大阪圏で開催されるフェアとかセミナー等へ、積極的に出向いていくための1つのツールであるというふうにも思っております。

一方で、もう1つの柱であります受け入れ体制については、やはり移住者懇談を通じて感じるの、来られる方は地元の方とうまくやっていけるかなというやはり心配を、大方の方が思っております。場合によってはうまくいかなくて、諦めたという例もこれまでもあるわけですけれども、今おいでの方は温度差はあっても、地区の皆様と少なからず1住民としての生活をされておられるということでありますので、やはりそういった意味では、移住者を側面支援できる地域の体制づくりというものをこの中で行っていきたいと、そんなふうに今考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

本当に来ていただいている方の話を聞くと、やっぱり農村風景で、食、すばらしいし、今度は地元の方々と、その辺は半々だと思うんですが、うまくやってる方々とやってない、その辺のやっぱりうまくやってない方のためのプロデュースというか、コーディネートする人たちも含めて必要ではないかなと、こう思っておりますし。

海士町が17年から住居の支援とか、4年間で202名の定住者が来ておるそうなので、それはほとんど漁業就労関係とか言われてるんですが、本当にちょうど県で4月19日（土曜日）に、新潟県平成26年度第1回漁業就業希望者と乗組員募集経営体との集団面接会ということで簡石で行われて、18歳から35歳の方で募集をかけたんですが、その辺の結果とかあったら教えていただきたいと思っておりますし、こういうのを第1次産業全体も含めてどんどんやっていっていただきたいな

と、こう思っておるんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

今、議員がお話いただいた就労希望する漁師の皆さんと、就業したいという皆さんの面談会にうちの職員も同席をさせました。雰囲気は味わってきたわけでありませうけれども、どのようにマッチングできたかというのは、今ちょっと確認できておりませうけれども、25年度におきましては上越漁協で、筒石で3名、能生で2名の新たな新規の就業がおるといふうに聞いております。5人のうち一般の方が1人、それから新潟と上越からお見えになった、担い手事業で来た方がお二人といふうに中身を聞いておりますけれども、漁業でいいますと小泊漁港を中心として上越漁協の就業の皆さんの平均年齢が県内でも非常に若くて、元気のある地域だといふうにお聞きしておりますので、今後ともそのような事業を積極的に取り入れて、漁業者の後継者をしっかりと確保していきたいと思っておりますし、また昨年、元気な1次産業ということで、農業、林業、水産業の皆さんとお話し合いをしてまいりまして、そこでもやはり定住、担い手確保が大切だといふうに、関係の皆さんと連携してまいりましたので、しっかりと取り組んでまいりたいといふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ田舎暮らしで住みたい田舎、2014年のランキングとか、いろいろな形で出てくるのが、子育て世帯の中で群馬県の桐生市ですか、これが住宅関連施策とか雇用関連施策を含めて、転入者に最大で200万円助成といふことで、7月から住宅取得費用の一部を、この6月補正で2億1,000万円ぐらい出してるといふことも聞いておりますし、いろいろ金がいいかどうかはありますが、そういうのにぜひ結びつけていただきたいと、こう思います。

それともう1つだけ、今、移住、定住だけでなく、政策的に移民政策とか言われてるところもございます。今、1,000万人の移民と、移民を50年かけて受け入れるべきだといふ主張の方々もいらっしゃいますし、それは糸魚川に合った、どこの国がいいか、その辺も調査が必要なんでしょうけど、国の制度が変わらんとまだできないんでしょうけど、そういうすばらしい外国の方々もおるといふうで、そういうのも必要ではないかといふことで、年齢限定とかもあるかと思いますが、ぜひお願いしたいと思っております。

それで、その中で上越の会社に取り組んだ、だいにちスローライフビレッジですか、これが私が前々から言うところの夢ある暮らしのご提案で、サービスつき高齢者住宅ですか、その中に診療所もあり、医療棟、その中に屋外アスレチックとか、こども広場、ゲートボール場、その中で暮らせる形で、介護保険を使わなくてもできるのもあると思っておりますわ、介護度でない元気な老人とかも含めてできる。こういうのも特養はクレイドルやけやま16床ですか、また、おおさわの里でやるということ。それとは別に介護保険がかからんような、ぜひこういうのを考えていったらいいと思う

んですが、そういうのも全国に募集して、今また制度も変わりましたし、その辺の考えはないのか。勤める方々、今、かなりいないそうなので、全国に募集して糸魚川に来てください。そういうのも建てますので、それは企業ともタイアップせんとだめなんでしょうけど、そういう考えはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

ただいまご提言がありました、高齢者のサービスによる雇用対策ということで、私どもも非常に関心を持っております。従来、厚生労働省、いわゆる国のほうは、住みなれたところに、できるだけ住むということで、なかなか域外へ高齢者を出すということについては、非常に慎重な態度をとるとし、また今まだ奨励はしていません。

しかしながらご存じのように、今、少子化対策でさえ、いわゆる保育園の待機児童でさえ解決ができないような大都市において、今、非常に高齢者福祉が話題になりつつあります。今後、団塊の世代が、そういう介護等の高齢者福祉を受けなければならないときに、今、大都市では、もうそういう方々を受け入れる施設を建設するとか、そういうものについては非常に大きな困難が伴っております。

そういう中で国のほうでは今、検討を進めておりまして、大分住所地特例という、いわゆる介護保険とか、国民健康保険とかという問題で、いわゆる地域の外に出た方々のものを、もとに住んでおったところの市町村が負担するという制度を、だんだんだんだん拡充してまいりました。ただ、国のほうではまだまだ、先ほど申し上げましたように、域外へ出すということについては慎重な態度をとっておりますが、今、例えばの例では南伊豆町が、従来からつき合いがあります杉並区との提携によって、いわゆる特養などの受け入れ施設をつくって、雇用の場をふやしたいという提案をしてるわけですね。そういうものも国のほうは真剣に受けとめて、前向きに検討されつつあります。

したがいまして、私ども糸魚川市におきましても、そういう域外の方々のための高齢者福祉施設、これについては、今後、私ども糸魚川市の雇用、特に、女性の雇用についての大きな受け皿になるというふうに私は考えております。

したがいまして、国の情勢の動向変化をしっかりとつかまえる中で、私どもも例えば介護者や看護師、あるいは医師等の受け入れるためのしっかりとした準備、これからそういう方々をふやしていく努力をしないと、今現在、市民の医療、福祉関係が崩壊してしまいますので、受け入れるための準備施策を考えていかなきゃならないということで、前向きに調査検討を進めていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ国が決める前に早く準備して、南伊豆町みたいに早く手を挙げて、乗っていけるような体制づくりも、やっぱり若い女性をふやすためには、そしてまた地元の方々と結婚して子供をつくって

いただくということをやっぱり考えていかないと、早目に。今、競争の時代ですので、そういうのが枠がなくなる前に、ぜひ早目に取り組んでいていただきたいと、こう思っております。

それと国土交通省が出した若者と女性の雇用で、外国人をいっぱい雇い入れればよいというアンケートですか、そしたらやっぱり外国人は一部でいいということの調査結果が出ていて、冬の除雪で外国人もやって、オペレーターになっていただくとか、建設関係とかで、第1次産業の中で出てきてる6次産業化も含めて、ハウスで冬の作物をどうつくればよいとか、それも関連していろいろな形で国土交通省も含めて、そして農林水産省とタイアップしながら連携して、冬場をどう乗り切るかも含めてそういうのも考えていただきたいと、こう思っておりますし、総合的な福祉関係も含めて取り組んでいていただきたいと、こう思っておりますが、その辺の総合的なプロジェクトを今回立ち上げるということで、年度内というんですが、その辺の考えとめどですね、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

人口減少対策につきましては、大きな課題でございます。その取り組みの骨子の部分では、先ほど来、話がありますように働く場所、それから住まいというような、大きな2本の柱があるかと思っております。

特に、働く場所については、今いろいろとご提案等もございましたけれども、それらのご提案も含めて庁内でいろんなアイデア、市民の皆様からもお聞かせいただくというようなことも含めまして、いろんなアイデアを出す中で、人口減少対策の取り組みをしていきたいというふうに思っております。

庁内においては、人口減少プロジェクトチームを設置して、今年度、庁内の職員で議論をしており最中でございます。状況によっては、庁外の皆さんからもご意見をいただきながら進めてまいりたい、そのように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ庁内だけとは言わず、やっぱり民意の反映、民間のちょっと考えも入れた中で人口対策。今、かなり糸魚川市では、数年前から取り組んでいるこの人口減少対策、定住問題対策も含めて、私、すばらしいと思うんですわ、やってることも含めて。これだけ国、県レベルで、今、やっつと県が3子目に200万円とか、国もまた動き出してきましたけど、先進的なモデルが糸魚川だと思うんですよ。それをちょっと検証しながら、これだけ取り組んできて、検証して、次、また分析して、ここまでまた今度はやりますよぐらい。やっぱり先進的なモデルとして、ぜひやっていただきたいと、先進的なモデルになると思うんですよ。その辺、いかがでしょうか。その考え方等も含めて、次の取り組みも含めていかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

モデルになるかならんかは、ちょっと別といたしましても、我々のところはもう待たなしで、何でも考えなくちゃいけない、やらなくちゃいけないという感覚でおるわけであります。

今、ご指摘いただいた点、我々もいろいろ考えておるんですが、全国の中で取り組んでいたり、また、全国でなかったりもするわけでありますが、とりあえず我々は、もう本当に待たなしで取り組まなくてはいけないという感覚でおりますので、それが非常に厳しい状況であろうとも、やらなくちゃいけないことは、やっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひモデル的になるぐらいの本気度を見せていただきたいなど、こう思っております。

それとちょっと飛ぶんですが、ICTの活用の関係で、先ほども言わせてもらった島根県の海士町も京都府の宮津市も、映像配信システムを利用した交流促進事業ということで、糸魚川なら糸魚川のファンをサポートするディレクターがおるそうなんですよね。そういうのも活用していただきたいと思えますし。

この前、建設産業常任委員会で行きました神山町、これも神山の特色ある文化と双方向のウェブ通信技術を活用した地域活性化モデルということで、世界における芸術のポータルになることを目指す。

世界の芸術家をどんどん呼んで、十日町や妻有で大地の芸術祭じゃないですけど、あれは本当に各国から空き家を利用して誘致して、何か月間やったりとか、3年に一度ですけど、そういう人とのつながり、芸術家だけでなく文化、スポーツ関係も含めて、そういう交流の提供をインターネットで集客するそうなんです、それをビジネスにするんだそうです。

ブランド力を強化して、そこに集まる人が生み出す新しいビジネス的な価値を、他の観光産業と結びつけていくというビジネスモデルを構築してるそうなんです、そういうのを本当に観光を産業として、ICTも含めてやっていただけるような、あそこは空き家を利用してIT産業が来てるんですが、そういう方々とタイアップしながら行政も取り組んでいるということで、ぜひそういう本当に産業に結びつくような形でやっていただきたいと思うんですが、そういう取り組みを糸魚川市ではできないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり定住については、ただ来て住んでいただけりゃいいということではなくて、農村の修景がいいから、空気がいいから、自然がいいからだけではだめだと思っております。そこでやはりしっかりと生活ができていく、生活の基盤である就労が定着がきるのかというのを、やはりやらなくちゃいけないんだろうと思っております。

その辺をどういう形でもっていくのかというところが、今、我々もやはり一番の課題だろうと思っております。そういう中において1次産業も含めながら、また例えば家族4人が、子供2人、そして御夫婦の4人が、やはり生活ができる環境をつくっていくことが、一番大事だろうと思っております。

その中においては、どのような就労の場面ができるのかというのも、今ご指摘の点だろうと思っておるわけでありますので、我々糸魚川市に合ったそういったところを、探っていっていかなくてはいけないんだろうと思っております。よそが成功したからって、それをすぐ右から左ではだめだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ糸魚川独自の戦略を立てて、ジオパーク戦略プランだけでなく、お願いしたいと思います。

それと糸魚川応援隊、これ文化もスポーツも含めていろいろな方々おるんで、有名人を含めて中村礼子さんとか、相撲のまちづくりをやってるんで大相撲とか、レッドソックスの上原の奥さんが早川出身なんですよ。そういうのも含めて、つながりをやられたらいかがでしょうか。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（樋口英一君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

ここで3時15分まで休憩いたします。

〈午後3時00分 休憩〉

〈午後3時15分 開議〉

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

○7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告書に基づいて質問させていただきますので、よろしく願いいたします。

1、歩いて見て楽しむまちづくりについて。

歩いて見て楽しむ着地型観光として、オープンガーデンや街なか・里山歩きに取り組む自治体を見受けます。

当市でも「街なかコレクション」など良い例で更に発展を願います。

オープンガーデンは、地域のイメージアップと市民参加による緑化推進、協同のまちづくり、観光客との交流によるおもてなしなどが期待できます。

糸魚川市は真柏・ヒスイの産地であり、市の花は「ささゆり」ですが、先日「宇宙を旅したささゆり」が開花したところでもあり、これを機にガーデニングを糸魚川市でも支援し広めてもらえたらと思ひ伺います。

- (1) 定期観光バス・花めぐり「花物語」の利用状況について。
- (2) ガーデニング講座の開催状況について。
- (3) 翡翠園・玉翠園の利用状況について。
- (4) 市内には「かねこつつじ園」「大王あじさい園」といった誇るべきガーデンがありますが、今後さらにオープンガーデンを支援し広めることについてのお考えを伺います。
- (5) トレイルランの開催を望む声がありますが考えを伺います。

2、人口減少について。

「日本創成会議・人口減少問題検討分科会」が先月発表した試算では、今のペースが続けば2040年までに全国896自治体で20～39才の女性が半減し人口も減少、うち1万人を切る523の自治体は社会保障の維持、雇用の確保も難しく行政維持が困難で消滅の可能性が高いそうです。

新潟県内では18の市町村で40年までに若い女性が半分以下に減る予想です。地方から大都市への人口流出、特に若い女性の流出が原因といわれます。糸魚川市は幸い含まれていませんでしたがやはり人口減少は深刻で、観光等広域で連携をとる近隣の市町村も該当し、その対応が求められることから次の点について伺います。

- (1) 現在取り組んでいる人口減少対策について。
- (2) 婚活事業の取組状況について。
- (3) 病後児保育事業の取組状況について。
- (4) 空き家情報について。

3、北陸新幹線開業と並行在来線について。

北陸新幹線開業のカウントダウンも始まり、今月6日には営業運転で導入される新型車両W7、E7系が長野一金沢間で走行試験を実施する発表が行われ、開業機運も盛り上がってまいりました。

また、北陸新幹線開業と同時に経営が分離される並行在来線もこれからの重要な時期といえます。北陸新幹線と並行在来線の開業に向けての市の考えを伺います。

- (1) 北陸新幹線開業に向けてのイベントについて。
- (2) 市内及び広域観光連携を図る観光地との交通・観光情報のワンストップサービスについて。
- (3) 並行在来線の新駅調査の取組状況について。
- (4) 並行在来線の駅舎について。
 - ① 糸魚川駅、直江津駅など共同駅の管理について。

- ② 無人駅・委託駅の施設（待合室等）の市民利用について。
- ③ 切符販売について。
- (5) リゾート列車について伺います。
 - ① デザインに対する考え方とスケジュール。
 - ② 活用に対する市民要望について。
- (6) トワイライトエクスプレスの廃止の影響について。

4、農業政策について伺います。

農地集約による経営の大規模化を促す農政改革が始まりました。

政府は「農業は成長産業になる」として改革を推し進めようとしておりますが、高齢化率が高く中山間地が多いうえに稲作依存の強い当地においては困難が予想されます。

担い手育成を含め糸魚川市の現状と取り組みを伺います。

- (1) 農地中間管理機構について。
 - ① 市の借入面積及び貸付面積状況と関係機関との連携について。
 - ② 農地の引き受け手状況について。

報道によれば「糸魚川市の担い手の確保状況は十分でない」とありますが、確保状況と対策はいかがでしょうか。
 - ③ 当市におけるこれらの予算について。
- (2) 日本型直接支払制度の当市の状況及び中山間地域等直接支払制度の次期見直しと求められる事務簡素化について。
- (3) 生産調整見直しに伴う作付け状況について。
 - ① 飼料用米、加工用米、備蓄米等の作付けについて。
 - ② 転作作物への影響について。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、今年の運行は5月13日からの10日間で、延べ191人の利用者がありました。非常に好評いただいております。

2点目につきましては、地区公民館事業としてガーデニング講座が開催されております。

3点目につきましては、25年度では翡翠園が5,895人、玉翠園が8,772人でありました。

4点目につきましては、花いっぱい運動や市民講座などにより、多くの家庭で広まることを期待いたしております。

5点目につきましては、自然に触れ、親しむスポーツイベントであると思っており、開催にはコース選定をはじめ市民の盛り上がりが必要であると考えております。

2番目の1点目につきましては、U・I・Jターン促進空き家改修事業や、ふるさと就職促進事業などの18件の定住対策と、子ども医療費助成事業や保育料軽減事業などの23件の少子化対策

に取り組んでおります。

2点目につきましては、現在、3つの婚活事業に取り組んでおります。

25年度において、縁結びコーディネーターでは4組の成婚実績があり、ハッピー出会い創出事業は、2件の補助事業を開催いたしております。結婚相談所入会支援事業は、26年5月末現在で入会者数は23名となっておりますが、まだ婚姻実績はありません。

3点目につきましては、保坂議員のご質問にもお答えしたとおり、年内の開設を目指しております。

4点目につきましては、情報提供しており、25年度の紹介件数は79件で、成約件数は10件となっております。

3番目の1点目につきましては、北陸新幹線糸魚川駅開業記念事業実行委員会がカウントダウンイベントを計画、実施いたしており、6カ月前、3カ月前、1カ月前、前夜祭及び当日の開業イベントを予定いたしております。

2点目につきましては、ジオパーク情報発信コーナーにおいて、ワンストップサービス化に向けた観光案内機能の強化を、北アルプス日本海広域観光連携会議で進めてまいります。

3点目につきましては、今年度、えちごトキめき鉄道の基礎調査、及び市の詳細調査を行い、新駅設置についての検討をしております。

4点目の1つ目につきましては、共同使用駅の管理は、えちごトキめき鉄道で行うことといたしております。

2つ目につきましては、会社ではにぎわいのある駅舎づくりを目指し、地域や行政と、その活用について検討を行うといたしております。

3つ目につきましては、会社では有人駅での切符販売を継続するといたしております。

5点目の1つ目につきましては、現在、会社で検討を進めており、今年度中に決定し、開業後1年以内の運行を目指しております。

2つ目につきましては、市といたしましてもリゾート列車の大糸線などへの乗り入れにより、広域的観光振興に資するよう会社に要望いたしております。

6点目につきましては、現在、えちごトキめき鉄道で、廃止による影響を試算中であります。

4番目の1点目の1つ目につきましては、新たな制度としてスタートし、現在、農地を借り受ける担い手の募集を始めたところであり、まだ農地の貸し借りはありません。

また、JAひすいや地域振興局と連携をしながら、制度を推進してまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、担い手の減少と高齢化が進行しており、若い担い手の確保と育成が必要であると考えております。

3つ目につきましては、今定例会で補正予算を計上いたしております。

2点目につきましては、多面的機能支払では、これまでより27多い49地域が取り組むこととなりました。

また、中山間地域等直接支払につきましては、第4期から急傾斜地に加え緩傾斜地も対象となるよう取り組んでまいります。

交付金の事務処理は、今年度から全市で事務を一元化する体制の整備を進めております。

3点目の1つ目につきましては、飼料用米は15アール、備蓄米は45ヘクタールとなっております。

加工用米の作付はありません。

2つ目につきましては、当市はとも補償制度によって生産調整を行っており、転作作物への影響はありません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ありがとうございます。

まず1点目、定期観光バスでありますけれども、大変好評というふうに今答弁をいただきました。

この客層といいますか、市内・市外、どんな市外から多く来ていただいているというふうに見てよろしいのでしょうか。また、好評の仕掛けとして、こういうのは春に来た方が、今度また夏に来るとか、また来年も来るとか、今度は桜の時期に見に来ようとか、サツキの時期にまた来るとか、そういう仕掛けづくりというものを一緒にやっておられるのかどうか、その辺の対策、対応について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

ことしの分については、まだアンケート等が集計できておりませんので、昨年のアンケートの集計結果で見ますと、客層でいくと、やはり60代、70代が非常に多い数字となっておりますし、男性と女性で見ると、大体、男性の3倍ぐらいが女性という形になってます。

それから割と友人、知人同士で来てる人、それから夫婦で来ているという方も結構多くおられます。

それから方面別に見ると、富山県が一番多い形になってますし、あと県内関係が多い形です。

それからちょっと意外なのが交通手段でして、昨年、226人見てるんですけども、そのうち110人がJRを使って来てるということで、そういう交通手段で来ると。

それから、昨年ですと月不見の池、藤まつりの会場、谷村美術館、つつじ園と4カ所回っておりますけれども、どこの場所でも、おおむね評価は非常によい結果になってます。ただ、月不見の池が少し悪いというアンケート結果になってますので、やはり水質改善、そういったところが課題かなと思っております。

さらにアンケートの中では、やはりまだ違うスポットがあったらというような状況もありますけれども、花物語としては、今のこういった藤とツツジ、それと谷村美術館、玉翠園、そういったところで進めていきたいと思っておりますし、次の定期観光バス等のご案内は、そういった際にはしてやる状況です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

詳しくありがとうございました。

先ほどの市長の答弁では191人、今、課長のほうでは前年が226人というふうに、何か少し減っているんじゃないかという印象も非常に受けるんですけども、来年は今度、新幹線開業の年にしてるわけなんですけれども、今のお話ですとJR利用が多いということで、新しく何かそれについての企画を持っておられたら、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

今のところ新たな企画というのは、まだ考えてませんが、ただ、JR等のご協力によって、やはり金沢駅とか、そういった新幹線と関連するような駅でも、PRをしていきたいというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

これからということで、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

次、3番目のほうに飛ばさせてもらいます。翡翠園、玉翠園、非常に名造園家、中根金作氏の作庭ということであるんですけども、意外とこのことを訪れてから初めて知ったという方も耳にしたりするわけなんですけれども、たくさん非常に有名な作庭をされておられる方なんですけど、この中根さんを作庭関係のネットワークとか、そういったことはないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

中根金作さんのネットワークというのは、ちょっと私は承知はしていませんけれども、やはり谷村美術館も翡翠園も玉翠園も、本当にすばらしい施設だというふうに思っております。ただ、なかなか入館者数が伸び悩んでいると。その原因の1つには、やはり一度閉園したという、それがなかなか再開したことが伝わらない。旅行者等へもダイレクトメールを出しているんですけども、やはり知らないエージェント、そういう方も非常に多いということで、特に、ことしについてはフォッサマグナミュージアムのリニューアルもありますので、やはりその代替施設としても営業の強化を図りたいというふうに思っておりますし、特に近隣の美術館、そういったところともパンフレット等の交換をしたりする中で、連携を図りたいと思っております。

特に、ことしは金沢の21世紀美術館のほうの特別展で、建築のフォーラム的なものがあるんで

すけれども、その中で村野藤吾先生の作品として、谷村美術館も模型つきで紹介される予定になってますので、そういったところとも連携して、今後、さらに集客のほうを図っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

なかなか一旦、閉園すると伸び悩んでしまうということで、残念なところもあるんですけども、一方では、市民のやはり来園といいますか、そういったものも促してもらいたいなど。ネット等を見ると、非常に多くのイベントやら展示会、お茶席、作品展、そういったことをされているんですけども、そういうふうにとんどん市民に開放した形というか、利用促進もあっていいんじゃないかなと思うんですけども、その辺の使用基準とか、あるいは利用促進策というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

利用促進策として、スタッフのほうもいろいろなことを考えてます。夜のライトアップをしたりとか、お茶会をしたり、それからいろんな芸術作品の展示即売会みたいなのも同時にしたりということで、市民周知にしても広報等でやったり、チラシをまいたり、それから去年は新たな試みとして冬期間、お客の減少する時期に小中学生の無料券を配布したりということで、取り組みのほうは進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

では、（2）のほうに戻るんですけども、ガーデニング講座ですけども、先ほど花いっぱい運動を通じてということで、これはことしから始められたかと思うんですが、その活動状況、反応等はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

ことしから花いっぱいまちづくり運動ということで、事業を始めておりますけども、これはもともと花いっぱいの会に委託していた事業を、花いっぱいの会が解散したことに伴いまして、会に所属していなくても、やはりまちの中心部だとか、それから地域の中心部、入り口等に、団体、それから会社等の方で、花を植えて管理していただける方について苗等、それから肥料等をお配りする

ということで事業を始めさせてもらっておりまして、基本的には、例年とほぼ同じような状態で、一応活動をさせてもらっておる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今、環境生活課のほうでお答えいただきましたけども、どちらかというところ、これまでのガーデニングは、生涯学習の一環とか、あるいは環境美化ということで答えられたりということであると思うんですけども、これからはちょっと観光というものを意識をしたガーデニング講座というものを進めてもらえないかなということ、今回、取り上げさせてもらいました。

プロの方や、あるいはガーデニングアドバイザーとか、グリーン製図クリエイターという、こういう資格があるわけなんですけれども、こういう資格を持った方が講師となつての、実際の庭園を使つてのガーデニング講座、こういったものもすごくやってもらいたいなと思うんですけども、そういう取り組みという考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

生涯学習のほうでは公民館が主体的に、このガーデニング講座をやっていたいておりまして、やはり参加される方の人数をもとに、主にはプランターの寄せ植えですとか、そういったものが中心でございまして、今、ご提言のような庭づくりそのものをというのは、今までの実績の中ではございませんが、またそういったものもニーズによって進めていければというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

誤解されないようにあれなんですけども、もちろん環境美化とか、あるいは生涯学習の一環としてのものは大事なことで、ぜひそれらも進めてもらいたいという中で、さらにまたもっといろいろと知識を深めたいとか技術を習得したいと、そしてさらにそれを人に見てもらいたい、そういうふうに発展していくためにも、こういうものがあつたらいいなということで提言させてもらっている。ぜひそういう形のものをやっていたらと。

それを言うのも、須坂市ではオープンガーデン参加を予定されている庭づくりを、初心者を対象にしたガーデニング講座というのをやっております。年5回で2,500円の講習料ということで、やはり実際の庭園を使つての講習。土づくりとか花・木やなんかの種類、それから花・木の配置の仕方、庭園管理の仕方、そういった基礎知識からやっておりますので非常に好評ですし、また、それが実績に結びついてきているというふうに聞いております。ぜひ参考になればと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ちょっと話がかわるんですけども、間もなく北陸新幹線が開業するんですけども、その玄関

口である糸魚川の駅周辺、この辺に花を植えて観光客を迎える計画というのは考えられないものなんでしょうか。特に南口のほうは、いろいろと大規模に整備してあるんですけども、今、聞いている範囲では、花壇等は聞いてはいないんですが、これからでも考えられないものなんでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

今、駅周辺の整備の中では、直接、花壇をつくって花を植えるよという計画はございません。それはいろいろ駅周辺の中の広場は、ある程度、イベント対応の中で、そういうものをできるだけつくらないという形ではあります。例えばプランター等であれば、そういうのはまた、まちの中で、にぎわいの中で計画していけると思います。

それから南通り線のほうは街路樹としてハナミズキと、それからヤマボウシという、糸魚川では花の咲く街路樹というのは、今回、そこが初めてだと思う。一部区画整理ではあります。そういうのは地元の人意見を聞きながら20本前後でありますけども、そういう花を巡らせているところもございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

いろいろと考えがあるかと思うんですが、プランター等ですと、今度、水やり等いろいろ大変なんですけども、花壇ですと、初めからそのような形で施設をつくるということで、管理も比較的ボランティアの人に頼みやすいというふうに思っているわけなんです。

こういうことを言ったのも、よく青海駅前へ行くと感心するんですけども、駅前に竹がきれいに植わっておりまして、竹のからかいの玄関口としてふさわしいなど、そういったことを考えられた方も、またすばらしいなというふうに思っているところです。最近、また能生の駅前も、ボランティアで整備をされておりますし、やはりきれいで気持ちがいい。そういったこともありまして、何らかの形で、そういうお迎えするような形といたしませんか、観光客のおもてなしにつながる取り組みということで、ぜひやってもらえないかなと思いました。

オープンガーデンなんですけれども、原則、個人の庭ということで、1つ1つの発信力が、あんまり強くないということがありますけれども、それぞれの地域を区分けして、エリアごとに施設の拠点化というのをやって、ガイドマップ等をつくって案内すれば、かなりいいんじゃないかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ジオサイト等は、そういった施設の拠点になるかと思うんですけども、今度、大規模リニューアルするフォッサマグナミュージアムなんですけれども、その前の公園や花壇等は、今回のリニューアルに伴って何か考えが有りますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

過去には植栽等、花を植えた経過がございますけども、現在については現状どおり花は植えておりません。ただ、近くにはササユリを大規模にライオンズクラブの方々が植えておりますので、そういうものも活用していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

そうですね。ササユリの自生地であり、非常にこれからの観光の拠点でもあるし、あの辺を公園として、花等をもっと力を入れてもらえたらいいんじゃないかなと思って言わせていただきました。

過去にも古川議員が、フォッサマグナミュージアムの美観政策ということで質問してまますけども、いろいろこの機を利用して考えていただけたらと思います。

これは私どもが政務調査で訪れた、秩父の横瀬というまちなんですけれども、非常にオープンガーデンに対して力を入れておりまして、こういう冊子をつくって配布してます。こういったエリアに分けて皆さんは非常に、これを持って各家庭等を喜んで、楽しんで歩いて回っているという話も聞きました。ここもジオパークを推進してるまちでありますし、すぐ近くの皆野町も、こういうオープンガーデンをやっておる。兵庫県の豊岡市のほうでもやっていると。非常にジオパークの推進の一環としても、オープンガーデンはいいんじゃないかなと思いますので、考えていただけたらと思います。

オープンガーデンというか、花のことで最後ですけれどもササユリ、先ほど話しましたように宇宙を旅したササユリが、4年10カ月ぶりに今、開花しております。亡くなられた小野健さんが仲介されて、実現したもんなんですけれども、今回、そのかわられた長谷川さんが希望の花として、地域交流の大使となってもらいたいというような報道にありました。

今の段階では少ないということでもあります。公開もできないということなんですけども、今後、数等をクリアした場合には、何か活用としての考えというものがもしあれば、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

○総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

宇宙から戻ったササユリがようやく2鉢、花が2つ咲きました。まだ一般公開、あるいは市民の方にお配りする数ではございませんが、これをもう少しふやして来年以降、たくさんになってくればという仮定でございますが、学校でありますとか、希望者でありますとか、そういうところへ配れるようになればということで期待をしております。

また、交流という面では、ササユリと一緒に全国の桜とかスミレ、そういうものが一緒に宇宙へ行って戻ってきました。そういうところとの交流も幅広くやればいいですねという、このプロジェクトを主催しました長谷川リーダーのお言葉でございました。私たちがたくさんササユリが咲

くように期待をしてるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ぜひ非常にいい企画ができるんじゃないかなという気がしますし、期待してみたいと思います。

トレイルラン、先ほど市長の答弁でありましたように、確かにいろいろと課題があろうかと思えます。ただ、もうご存じのように山陰海岸においては世界ジオパークトレイルラン、もうこれを記念してことしで3回目、7月6日にことしは行われるというふう聞いておりますし、隣の小谷村では塩の道トレイルランが、毎年、行われています。

まだトレイルラン人口は少ないんですけども、飛躍的にふえているというふうにも聞きますし、この地域を、地形を利用した、おもしろい試みじゃないかなと。ぜひ積極的な検討、活用に対する考えというものを持っていただきたいと思いますが、もう少しもしご答弁があれば、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

トレイルラン、他市で開催されております情報等を見ますと、里山よりは、はるかに急峻なところが好まれるというふうな競技だと思っております。

そういった中で、当市に近いものとすれば、青海で開催されております山岳マラソンのようなものもございますが、これは林道、市道等を使った道路上のマラソンに近いものでありますが、そこよりさらに急峻な登山道的なものをコースに選ぶとすると、やはり登山道を献身的に整備していただいている方々のご理解でありますとか、あるいは非常に人気のある山がたくさんありますので、登山を目的に来られている方とのマナーの共有ですとか、そういったいろいろなものが必要だと思いますし、山岳マラソンそのものも、大勢の理解のある方々が実行委員会という形を立ち上げて、運営に当たっておられるということをお思いますと、当市においても、まだまだ人数的には足りないんじゃないかというふうに思っております。今後、またそういう方々がふえてくれば、ご協議をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

確かに、そういう話も聞きます。難しいだろうなという感触も持つんですけども、先日、上越でも150人集まってやったように、この地域ならではの、また、そういうふうな中できるものもあるんじゃないかなと思いますので、また検討をお願いしたいと思います。

今回、歩いて見て楽しむということで挙げさせてもらいましたけれども、高速交通が発達して、

遠くのところへ短時間へ行くことが可能となると、今度、目的のところへ早く行って、ゆっくり、たっぷり自分の時間を過ごしたいという気持ちが生まれてくるわけなんですよ。特に、自分の趣味に合う文化やスポーツに出会えるところがあるという情報をつかまえると、多少遠くても、また不便でも、また多少高くついても行く気になるというふうに聞きます。

そういう従来の定番型観光では物足りないという人が、最近、ふえているというふうに聞きますから、そのような観光客のニーズに応えようというツアープログラム、体験プログラムが、最近、多く出ております。そういったいわゆる着地型観光の中でも、そこに住む住民が参加し、創意工夫したり、住民と一緒に作り上げる、楽しむという、その地域ならではの独自性の高いものに魅力を見出しているというところがあります。

また、こういう歩いて見て回るということで、健やかで幸せに暮らせるまちづくり、いわゆるスマートウェルネスシティの取り組みにもつながると考えられますので、北陸新幹線開業を機に、いろいろと取り組みの1つとして挙げさせてもらいました。

次に、人口減少のほうに入らせてもらいます。

きょうも、もう何人かの方が、このことをテーマに質問をされておられます。昨年も30年後の人口問題研究所が発表したあの数字に驚いたわけなんですけれども、糸魚川市は今回の消滅可能性都市、これには入っていなかったとはいっても、この数値的なものは大差ないと。47.5というふうに聞きましたけれども、改めて、この人口減少の課題というものは、どこの地域でもある共通の課題である、深刻な問題というふうに感じております。

6日に、県市長会と県町村会が、この問題を提起した日本創世会議・人口減少問題検討分科会の座長、増田元総務相を招いて、長岡市で講演したと。これには大勢参加されているということなんですけど、糸魚川からも参加されたんでしょうか。参加されたら、どのように受けとめて、また、対応を考えなければいけないかと思ったか、感想があったらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

去る6日に長岡市で開催されました県市長会と、県町村会が主催をして、人口減少問題をみんなで考えようということでもあります。当市から私を含めて3名出席をさせて、講演を受講しております。

大変有意義な1時間半でありましたけれども、そこでのやはり受けとめ方として、昨年3月に国立社会保障・人口問題研究所の数値より、はるかに厳しい衝撃的な数字が、この5月8日に発表されたということで、県内の自治体も非常に関心の高い、県も含めてでありますけれども、同日出席して聴講したと。

そこでの私の感想でありますけれども、大きくは2点ありますけれども、これからの日本社会で、人口減少が加速度的に進んでいこうという原因の1つは、95%の、その年代に子供が生まれるといわれる20歳から39歳の若年女性といわれている方の人口が、大きく急激に減っていくという現象が1つ。

それからもう1つは、やはり東京を中心とした大都市圏への一極集中がさらに進む。いわゆる人

口の社会移動が何もしなければ進むということで、糸魚川は糸魚川なりの、国の施策の動きとか県の施策の動きがあったとしても、当市は当市としての独自色を出した人口減少対策が、必要だというふうに強く感じてきたところでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私も報道等を見て、非常に危機感と言いましようか、改めて感じているんですけども、今、課長から話がありましたように、若年の女性の流出が1つの大きな課題と。これはどこの地域でも、かなり指摘されているところなんですけれども、1つは雇用の場の確保があるんじゃないかと。高卒の求人、あるいは求職の状況というものは、当市においてはいかながなもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

管内の高校卒業者の就職の状況でありますけども、24年と25年の数字を申し上げますが、24年では、414名の卒業に対しまして就職の希望者が114名、そのうち管内に就職した人が70名でございます。25年では、卒業者が414名、就職希望者が109名、そのうち管内の就職が78名でありまして、24年に比べますと8名の管内の就職がふえているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ありがとうございます。

希望されている方が、みんな就職されたというふうに理解していいのかなというふうに思うんですけども、一応、就職をされたけれども、今後の対策としては本当に求める職種、そういったものがあるかどうか。また、そういった実は就職してからの雇用のミスマッチ、そういったものがないように、若者のニーズに応じた情報の収集、あるいは企業情報の発信といった就労支援、雇用の場の確保というものが、求められてくるんじゃないかなと思われま。なかなか大変な時代だとは思いますが、こういったものがいろいろとうまくいけば、実を結んでくるんじゃないかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

人口減少対策として、今、いろいろと取り組んでいるのは、先ほど伺いましたけれども、婚活事業のほうの取り組み状況についてなんですけど、昨年、非常に話題となった入会支援、今のところ23名の入会者で成約はゼロということなんですけれども、それに対して縁結びコーディネーター事業のほうは、4組成約されているということなんですけど、非常に縁結びコーディネーターが頑張っておられるんじゃないかなというふうにはあるんですけども、ことし、その入会支援事業の中身が変わったというふうに推察しているんですけども、その辺の状況というものを、ちょっとお願

いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

昨年の新規事業で始めた結婚相談所入会支援であります。実質1年ではありませんけれども、1年弱の状況の検証の中から、今年度、変更した点が幾つかありますけれども、一番大きいのは、これまで入会金を全額市が負担するというのでスタートいたしました。検証の中で、入会費用のいわゆる一部負担がないことによって、いわゆるツヴァイとの婚活活動が少し相手任せになっているような状況もうかがえましたことから、そういった部分では、もう少し自分も負担する中でという部分を出していこうということで、全額でなくて行政は3分の2、3分の1は個人から負担をしてもらおうということで、入会金の一部負担を変えたところが一番大きい点であります。

それから、やはり公金を使っていくわけでありますので、入会された方の少し意向、動向等も把握したいものですから、アンケート調査をツヴァイを通じて入会者に行っていこうということで、今年度はその辺も同意書の中に盛り込んで、本人のご了解をいただいた上でスタートしているというところであります。

先ほど23件というふうに申し上げましたが、この間に1年間の中で3名の退会者もおられました。これは残念ながら会員同士の成婚ではありませんが、成婚もしくは交際に伴う退会ということで、ある意味、会員同士の中であれば、なおさら我々とすれば理にかなうところでありますけれども、それについても成婚、もしくは交際ということでの退会でありましたので、こういった部分をまた今年度の活動の検証の中に入れて、もうしばらくまた様子を見ていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

縁結びコーディネーターは非常に頑張っている印象を受けているが、先ほども言いましたように、いろいろと相談会、懇談会ですか、されているわけなんですけれども、もう少しこういうふうにしてくれたらもっと活動ができる、あるいは手当等も含めて、予算的な面も含めてという声はないもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

現在、11名のコーディネーターの皆さんから活動いただいでいて、その結果、去年は4組と。これまで22組の制度開始以来、成婚があったわけでありまして、私の今お聞きをする中では、連絡会議等での部分になりますけれども、謝礼金の例えば金額の件とかについては特にありませんし、それぞれコーディネーター個々の情報の中でご活動いただいでいるものでありますから、特に

こういったことだというようなご要望は、今のところないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

わかりました。

病後児保育は先ほど保坂議員のところで、また、空き家情報も大分いろいろとお話をこれまでされたので。空き家情報1点あれですけれども、ことし再調査して報告するという事なんですけれども、今現在、ホームページ等に掲載されている空き家物件がありますよね。1点気になるのは、あの価格は所有者の希望による価格なんでしょうか。それとも市場にのっとった、専門家の意見等を入れたものなんでしょうか。その辺、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

現在、ホームページ上で空き家バンクに登録されている物件につきましては15件ありますけれども、いずれも所有者ご本人の希望価格ということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

なかなか希望は希望でいいんじゃないかと思うんですけれども、場合によっては専門業者だとか、あるいは地域に工務店等があり、そういった専門知識を持っている人とか、そういったものの連携というものが必要なんじゃないかなとは思いますが、そういった今現時点においては、どうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

現在、市のホームページ上で15件の登録があると申し上げましたけれども、仮にその物件を借りたい、あるいはまた買いたいという方がおられましたら、実質的には県の宅建協会の登録の皆さんから、いわゆる不動産を扱っておられる方から仲介業をやっていただいて、契約成立の運びになります。行政のほうでは、特にあっせん料をいただいているとかそういうものではなくて、空き家物件の紹介をして、空き家の有効活用をしてもらうという狙いがありますので、場合によれば、そこで表示金額の変更等も相対の話でありますので、変わる可能性もあるのではないかなと思っておりますけれども、その辺は宅建協会との連携の中で、お互いにやったりとったりもありますけれども、情報も共有しながら進めているというのが今の現状であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

やはり多くの人に、これだけの物件を見てもらって、早く成約してくれればいいなという気持ちがある中で言ってるわけなんですけれども、案外調べると、たくさん出てくるんじゃないかなというふうに思っております。リフォーム、あるいはリノベーションを含めて、これまでいろんな何人かの方が話ありましたけれども、そういう改修等も面倒がかかるんじゃないかなというふうに思います。

やっぱり前にも何度か言いましたけれども、山間地ばかりじゃなくて、最近は町家のほうでも、こういった物件が出てくるようになりましたし、ある意味、文化の消失にもつながっていくものですので、ぜひ成約につながるようにいろいろと骨を折っていただきたいと思いますか、やっていただけたらと思います、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

空き家は非常に難しいところがございます。中に人が今住んでいるように改造したようなものは、なかなか相手の要求には賄えないわけございまして、どちらかというところ、やはり古民家というのは昔のまま残っているようなのが、やはり一番好まれるわけでありまして、ですから非常に価格も難しいですし、なかなか標準的には難しいわけですし、相手がどのようなものを望むかというのは、個々に非常に違うわけございまして、だから非常に我々といいたしましても、多くの古民家が空いてるんじゃないかと思っても、やはりなかなかそう簡単にはいかないところがございます。そのようなことで非常に好まれる部分というのは、結構、我々の身の回りには民家はいっぱいあるんですが、なかなか需要と供給がうまくいってないもの実情であります。

本当に我々といいたしましても、やはり空いておるならぜひとも住んでいただきたい、有効活用していただきたいと思うわけでありまして、なるべく多くの方に参画いただいて、人が住んでもらえるようにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

おっしゃるとおりかと思えます。書店等へ行っても田舎暮らしの本とか、古民家の本とか、また、それをまた再生した本とか非常に多く見受けるところを見ると、こういうニーズは結構あるんじゃないかなと。要は、そのニーズと提供するほうのマッチングやなんかが大事。また、それに伴う環境とかいろんなものが作用してくるわけなんです。

1つのあれで、毎年、クラフト作家が集まってのクラフトフェアが行われます。ことしも予定しているわけなんですけれども、彼らの中には条件が合えば、中古民家を工房に改装して住みたいと

いう要望もあるやに聞きます。ぜひ空き家情報、そういったものを機会に、そういうフェアのとき、あるいは、これに限らずいろんなイベントのときにも情報であげたらいいじゃないかなと思います
が、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

クラフト作家の皆様方と、ここ何度かお会いさせていただく機会がございまして、いろいろ情報をいただいております。

そういう中で、今、前段では市内にお住まいのクラフト作家もいるわけでありますが、できればいろいろな多面的な面を持っておられる方々でございまして、散居して住まわれるのではなくて、何かある程度まとまって住んでいただいて、そのエリア全体の交流人口につながるようなものにもっていただければなと思っております。ばらばらに入ってくると、行政も支援できない部分がありますが、やはりそういった1つのコンセプトを持っていくことによって行政支援もできるように、私はしていかななくてはいけないかなと思っております。ですから、できれば数多いところがあつてくれれば一番いいし、なるべく修景も、そういった自然が残っておるようなところがいいのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私もそれは同感であります。彼らはもう手に仕事を持っているわけでありまして、一番最初に言った、歩いて見て楽しむまちづくりというのは、1つはそういったところにもあるので、またそういう形を実現するようにお願いしたいと思います。

では、北陸新幹線の開業に向けてのイベントなんですけれども、先日、特別委員会で市外調査に訪れて、東京糸魚川会の方と懇談する機会を得て、非常に感謝と感動、刺激を覚えました。

3月7日に大きなイベントを予定しているわけなんですけれども、市は共催となっております、何か具体的に市として、こういうふうにして一緒にやっていくんだという考えがあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

東京糸魚川会の方とは何度かお会いして、3月7日に向けて市への協力ということで、東京糸魚川会からご要望が出てるのは、1つはジオパーク大使の出演依頼、それから糸魚川のほうから200人ぐらい連れてきてほしいというので、そのためのPRというところ、そういったところが大きなところですけども、ただ、具体的に何をどうしてほしいというのは、まだ細かい部分は、こ

れからの詰めになると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

先ほども言いましたように非常に彼らは燃えて、いろいろ頑張っておりますし、どうしたらじゃあこの会を通じて、新幹線の開業を盛大に迎えることができるか、あるいは機運を盛り上げることができるかという大事なイベントかと思えます。連絡を密にして、ぜひできるだけの支援をやっていただきたいなと思えます。

同じく今回の北陸新幹線の開業というのは、泉田知事もよく言うんですけども、関西圏からの集客ということが言われるんですけども、先日の報道では広告バスの話がありましたけれども、開業に向けて何かイベント等はあるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

新幹線開業に向けて、主には県の観光協会が主体となって、例年でも2回程度、大阪駅周辺で誘客活動をしておりますので、そういう際には当然、当市も参加したいと思えますし、できればその際には、北アルプス日本海という形で、当市の周辺市町村も一緒に紹介するような形で、取り組みたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

開業まであとわずかと言っていいような状況かと思えます。これから考えるというふうを受けとめるわけなんですけど、関西からの集客、あるいはPRというのが、かなり県のほうでも力を入れて、上越のほうでもそれにまたのっとっているということもありますし、ぜひ糸魚川としても、そちらのほうのPR効果というのは大きいんじゃないかなと思えますので、積極的な取り組みがあってもいいんじゃないかと思えます。ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。

交通や観光情報のワンストップサービスなんですけれども、観光協会のほうでの場所で、それらのワンストップサービスのほうを提供していくということなんですけれども、この観光情報等、広域観光連携はもちろんだと思うんですけども、先ほど話したように佐渡は関西のほうからは非常に有名で、新潟県の中の一番観光地としたら佐渡なんじゃないかなと思うわけなんですけど、佐渡のことについての考えというのは、情報サービスというものは考えておられませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

佐渡も今、ジオパークに認定されましたので、当然、ジオパークつながりという意味では、佐渡もターゲットに入っていくと思います。

そういう中ではやはり新幹線のダイヤ、そういったものが決まった中で、やはり糸魚川において、直江津方面へ行ける形がとれるのか。上越において、上越のシャトルバスを走らせているということですので、そういう形になるのか。いずれにしても、そういう情報をまとめる中で、観光客の求めに応じたツアー案内、観光案内というのは、していく必要があるというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中一君）

やはりジオパークつながりということで、ぜひ糸魚川において行ってもらう工夫というものは、大事だというふうに思います。この中にある2次交通のワンストップサービスも、ぜひそういった中に組み込んで、どこの観光地に行くには、この2次交通を使ったらいいというのが、すぐわかるような形の情報発信ということが大事だというふうに思いますので、ぜひその辺をよろしくお願ひしたいと思います。

どなたかの答弁の中で、この駅の中にはWi-Fi等通信設備のほうも大事だからやっていくというふうにされていましたがけれども、駅全体、全部どこでもWi-Fiスポットを使えるようになるのか、観光センターですか、そのところだけでしか使えないのか、その辺の考えはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

今、当課で取り組んでおりますのは新幹線駅の高架下、1階のほうはWi-Fiのほうを使えるような形で整備を進めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中一君）

できれば自由通路、それから駅全体、全部いろんな形で使えるようなもの。ちょっと私の頭の中で、まだ機能としてはどうなるかわかりませんが、最近、ブルートゥース等もいろいろ取りざたされていますので、そういったものの必要があったら今から考えていただけたらなと思います。

それから無人駅、委託駅の、並行在来線に入りますけれども、待合室、駐車場等の市民利用。

委託される駅等もあるわけですがけれども、いろいろと市民とお話していると、待合室とか駐車場を利用できるんかしらというふうに聞くわけですがけれども、先ほど答弁ありましたが、いま一度お願ひできればと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

基本的にはJRから譲渡された施設は、そのまま使えるような状況であります。

私どもは今、えちごトキめき鉄道、それから県に、譲渡の資産の整理をした中で、その辺の使い方まで、今後、考えていかなければなりませんし、また、今まで以上の使い方が、市にとってできるのかということの中で、詳細な個々の駅、それから駅周辺の譲渡施設の資料を求めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

具体的には待合室を利用して、青空市場みたいなもんができないかなとかそういう話、持ってきてももらえるんじゃないかなと思いますし、また、駐車場でイベントしたりとか、そういったことはこれから出てくると思います。なるべくそういった要望に応えていただけるように、間口を広げていただけたらと思います。

リゾート列車なんですけれども、JR九州の「ななつ星」は有名なんですけれども、それをデザインした水戸岡鋭治さんが、富山地方鉄道のリゾート列車もデザインしていますけれども、今回、並行在来線、えちごトキめき鉄道のほうでも考えているリゾート列車、そういったことを意識されたり、あるいは参考にされてると思うんですけれども、その辺の状況はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

基本的には、「ななつ星」という情報も入ってますけど、会社の規模から考えますと、そういう形にはなりません、今、2両編成の中で、私どももせっかくだらばやっばり話題性のある、それから、ああ、乗ってみたいというような形の中でのデザイン、それからコンセプトにしていきたいということで、ただ、今のところは、まだ詳細のほうは知らされていない状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

先ほどスケジュール、これも前にいろいろとお話を聞いてはいるんですけれども、こういうのってやっぱり早いほうがいいんじゃないかなと思うんですけれども、いまだにまだ詳細が知らされていないというのは、少し遅いんじゃないかという気はするんですけれども、市のほうとしてもその辺、早くやったほうが効果的なんじゃないかと思っておりますので、ぜひ言っていただきたいと思いま

す。

それからトワイライトエクスプレス、これ今試算しているというわけなんですけれども、単純にいろいろと調べてみただけでも、かなりの金額が収入減になるんじゃないかなと思うんですけれども、市のほうでもその辺は、どのように考えているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

これもえちごトキめき鉄道に移りかわりますと、ここの区間をもし走れば、そういうところでえちごトキめき鉄道の線路を借りて、そこで収入を上げるということであれば、当然、そこへまたえちごトキめき鉄道のほうにも入ってまいります、基本的には、幾らかというのは私ども知らされておりましたが、少なくとも収入減になるということだけは、これは間違いないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

例えばI G R、岩手のほうのそこらじゅうに夜行列車が通ってるわけなんですけれども、その辺の使用料等を試算してみるとか、あるいはそういうのが参考になるんじゃないかなと思いますし、いろいろとネットの中で、いろんなうわさも出ているわけなんですけれども、そういった場合、かなりこちらのほうにも影響があるんじゃないかと思えます。その辺の検討をよろしく願いして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後4時20分 延会〉

+

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+